



Cisco IP SoftPhone ユーザ・ガイド

Version 1.2

Customer Order Number: DOC-J-781599=
Text Part Number: 78-1599-02-J

本書に記載されている製品の仕様と情報は、予告なく変更される場合があります。本書内の記述、情報、および推奨事項はすべて正確なものと考えられ、提示されていますが、明示が暗黙かを問わず、どのような保証もされていません。製品の使用についてはすべて、ユーザの責任となります。

製品のソフトウェア・ライセンスおよび限定保証は、製品に同梱される情報パッケージに定められ、この記述の内容が本書に適用されます。ソフトウェア・ライセンスもしくは限定保証書が見つからない場合は、Cisco の代理店にお問い合わせ入手してください。

Cisco が導入する TCP ヘッダ圧縮は、カリフォルニア大学バークレー校 (UCB) により、UNIX オペレーティング・システムの UCB パブリック・ドメイン・バージョンの一部として開発されたプログラムを適応したものです。すべての権利が留保されています。著作・所有 © 1981, Regents of the University of California.

本書におけるその他の保証にもかかわらず、上記サプライヤのドキュメント・ファイルおよびソフトウェアはすべて、すべての欠陥に対して「無保証」で提供されます。Cisco および上記サプライヤは、商品性、特定目的適合、および非侵害の保証、もしくは取り引き、使用、または商慣行から発生する保証を含み、これらに限定することなく、明示または暗黙のすべての保証を放棄します。

Cisco またはそのサプライヤは、本書の使用または使用不能から発生する逸失利益、もしくはデータの損失または損傷を含みますが、これらに限定されることなく、すべての間接的、特別、二次的、または偶発的な損害に対して、Cisco またはそのサプライヤがこの損害の可能性を通知されていた場合であっても、責任を負うものではありません。

AccessPath、AtmDirector、Browse with Me、CCIP、CCSI、CD-PAC、*CiscoLink*、Cisco Powered Network ロゴ、Cisco Systems Networking Academy、Cisco Systems Networking Academy ロゴ、Fast Step、Follow Me Browsing、FormShare、FrameShare、GigaStack、IGX、Internet Quotient、IP/VC、iQ Breakthrough、iQ Expertise、iQ FastTrack、iQ ロゴ、iQ Net Readiness Scorecard、MGX、Networkers ロゴ、*Packet*、RateMUX、ScriptBuilder、ScriptShare、SlideCast、SMARTnet、TransPath、Unity、Voice LAN、Wavelength Router、および WebViewer は Cisco Systems 社の商標です。Changing the Way We Work, Live, Play, and Learn, Discover All That's Possible、および Empowering the Internet Generation、は Cisco Systems 社のサービスマークです。Aironet、ASIST、BPX、Catalyst、CCDA、CCDP、CCIE、CCNA、CCNP、Cisco、Cisco Certified Internetwork Expert ロゴ、Cisco IOS、Cisco IOS ロゴ、Cisco Systems、Cisco Systems Capital、Cisco Systems ロゴ、Enterprise/Solver、EtherChannel、EtherSwitch、FastHub、FastSwitch、IOS、IP/TV、LightStream、MICA、Network Registrar、PIX、Post-Routing、Pre-Routing、Registrar、StrataView Plus、Stratm、SwitchProbe、TeleRouter および VCO は、米国およびほかの国における Cisco Systems 社とその関連会社の登録商標です。

本書あるいは web サイトに記載のあるその他の商標はすべて、各社の所有物です。「パートナー」という語の使用は、Cisco 社とその関連のいずれかの販売店との間の提携関係を意味するものではありません。(0106R)

Cisco IP SoftPhone ユーザ・ガイド

Copyright © 2000–2001, Cisco Systems, Inc.

All rights reserved.



このマニュアルについて	xiii
目的	xiii
対象読者	xiv
マニュアルの構成	xiv
関連資料	xv
システム要件	xv
表記法	xvi
Cisco 資料へのアクセス	xviii

CHAPTER 1

Cisco IP SoftPhone の紹介	1-1
Cisco IP SoftPhone をスタンドアロン型の電話機として使用	
1-3	
IP SoftPhone を Cisco IP Phone の制御に使用	1-4
Cisco IP SoftPhone を英語以外の言語で使用	1-4
オンラインダイヤリングとオンラインディレクトリ	1-5
英数字の変換	1-5
通話ログ トラッキング	1-6
音声会議	1-6
バーチャル会議室とのデスクトップ コラボレーション	1-7
ホワイトボード機能	1-7
アプリケーションと資料の共有	1-9
チャット	1-9

ビデオ コラボレーション	1-10
ボイスメールの統合	1-11
Cisco E911 サービスのサポート	1-11
ネットワーク コンポーネント	1-12
システム要件	1-13
サポートする標準	1-14

CHAPTER 2

Cisco IP SoftPhone のインストールと使用開始	2-1
Cisco IP SoftPhone のインストール	2-2
Web ページからインストール	2-2
自己解凍形式の実行プログラムからインストール	2-4
CD-ROM からインストール	2-7
Cisco IP SoftPhone の始動	2-14
Cisco IP SoftPhone の終了	2-16

CHAPTER 3

Cisco IP SoftPhone の使用	3-1
使用する回線の選択	3-2
Cisco IP Phone 回線の選択	3-4
メインダイヤリング ウィンドウの使用	3-5
アイコンバー	3-7
状況依存ボタンバー	3-9
[回線] ボタン	3-11
表示の変更	3-11
音量の調節	3-12
スピーカ音量の調節	3-13
マイクロフォン音量の調節	3-15
発信	3-16

オンラインキーパッドからのダイヤリング	3-18
オンラインディレクトリからのダイヤル	3-18
直前にダイヤルした番号へのリダイヤル	3-19
通話の終了	3-20
着信への応答	3-20
着信通話の振り分け	3-21
着信コールのボイスメールへの送信	3-21
着信通話の無視	3-22
着信への自動応答	3-22
通話の保留	3-24
通話の転送	3-25
確認して転送する方法	3-25
直接転送をする	3-25
ボイスメールの使用	3-27
ユーザのボイスメールボックスの設定	3-27
ボイスメールの確認	3-28
着信通話をすべてボイスメールへ転送	3-29
音声会議の開始	3-30
会議に参加者を追加	3-31
会議から退出	3-31
Cisco IP SoftPhone で .wav ファイルの再生	3-32
自動応答モードの使用	3-32
発信者に .wav ファイルを再生	3-33
通話中の .wav ファイルの停止	3-33
ダイヤリング ディレクトリの使用	3-34
ディレクトリ エントリの追加	3-34
ディレクトリ エントリの削除	3-37

ディレクトリ エントリの編集	3-38
ディレクトリ エントリの検索	3-38
通話ログを調べる	3-39
詳細設定	3-40

CHAPTER 4

バーチャル会議室でのコラボレーション	4-1
コラボレーション用チェックリスト	4-1
ロースタ名簿の使用	4-3
アプリケーション共有ウィンドウの使用	4-5
資料の共有セッションの開始	4-7
資料のコントロール権の移行	4-9
資料のコントロール権の要求	4-11
資料の共有セッションの終了	4-11
ホワイトボード セッションの開始	4-12
ホワイトボード セッションの終了	4-13
ホワイトボードの同期	4-14
チャットメッセージの送信	4-15
ビデオ コラボレーション セッションの準備	4-17

APPENDIX A

トラブルシューティング	A-1
FAQ (よくある質問)	A-2
Cisco IP SoftPhone を開始しましたが、使用したい回線がまったく見つからないのはどうしてですか。	A-2
Cisco IP SoftPhone 設定の確認	A-3
Cisco TSP 設定の確認	A-5
テレフォニ サービスの再起動	A-8
ネットワーク接続の確認	A-9

回線が表示されているにもかかわらず、開こうとすると Cisco IP SoftPhone に「Could not open address」エラーが表示されてしまいます。 A-9

音声にジッターや途切れが生じる理由を教えてください。

A-10

適切なオーディオドライバの選択 A-10

音声が一方向しか聞こえない理由を教えてください。

A-11

全二重サウンドカードと半二重サウンドカード A-11

ネットワークオーディオの設定 A-12

Cisco IP SoftPhone の起動時に、「Could Not Initialize Audio Error」が表示される理由を教えてください。 A-15

Cisco CallManager の IP アドレスのを見つけ方と変更の方法

A-16

Cisco IP SoftPhone で使用している Cisco CallManager を確定する A-16

Cisco IP SoftPhone 用に設定した Cisco CallManager の IP アドレスを変更する手順の実行。 A-18

オーディオの設定 A-20

バーチャル会議に関する問題の診断 A-22

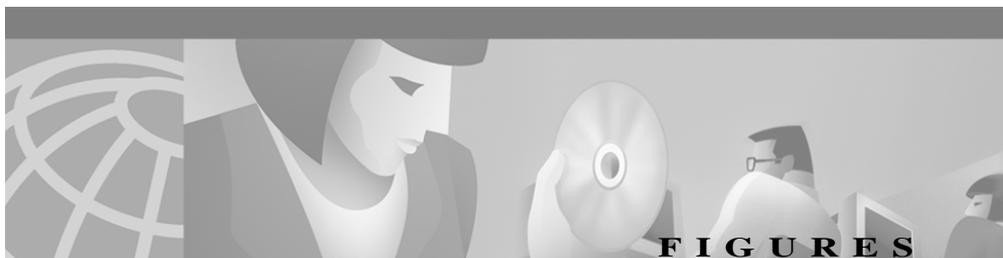


図 1-1	Cisco IP SoftPhone	1-2
図 1-2	ホワイトボード セッションの例	1-8
図 1-3	Cisco IP SoftPhone と Cisco IP テレフォニ ネットワーク	1-12
図 2-1	設定言語の選択	2-6
図 2-2	デモ言語の選択	2-9
図 2-3	Cisco IP SoftPhone の言語の選択	2-9
図 2-4	カスタマイズ ファイルの所在場所の指定	2-10
図 2-5	カスタマイズ ファイルを使用しない場合のインストール	2-11
図 2-6	Cisco IP SoftPhone を E911 用に設定	2-11
図 2-7	Cisco CallManager バージョンの選択	2-12
図 2-8	Cisco IP SoftPhone 回線の選択	2-15
図 3-1	制御する回線の選択	3-3
図 3-2	メインダイヤリング ウィンドウ (回線を選択した状態)	3-5
図 3-3	メインダイヤリング ウィンドウ (最小化した状態)	3-12
図 3-4	[音量の調節] ダイアログウィンドウ	3-14
図 3-5	通話オプション	3-17
図 3-6	応答オプション	3-20
図 3-7	着信通話をボイスメールへ振り分け	3-21
図 3-8	自動応答メッセージの設定	3-23
図 3-9	ディレクトリ エントリへの追加と削除	3-36
図 3-10	[通話ログ] ダイアログウィンドウ	3-39
図 3-11	[詳細設定] タブ	3-41
図 4-1	[ロースタ] ウィンドウ	4-3
図 4-2	[アプリケーション共有] ウィンドウ	4-5
図 4-3	資料のコントロール権の移行	4-10

図 4-4	資料のコントロール権の要求	4-11
図 4-5	チャット セッション	4-15
図 4-6	NetMeeting の起動	4-18
図 A-1	ローカル TSP の有効化	A-4
図 A-2	[オーディオ] タブ	A-13
図 A-3	ネットワークオーディオ設定	A-14

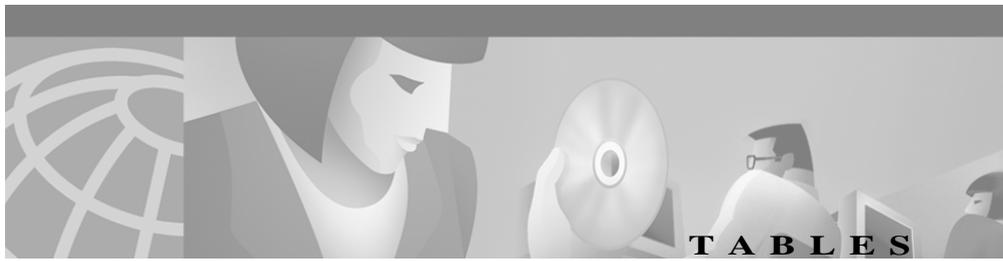
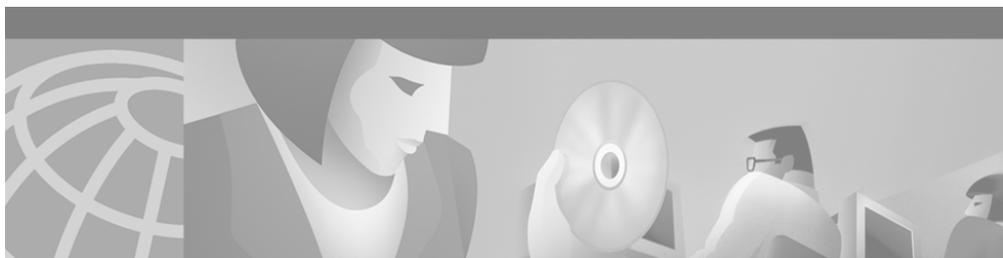


表 1-1	Cisco IP SoftPhone に対するハードウェア要件およびソフトウェア要件	1-13
表 3-1	メインダイヤリング ウィンドウのコンポーネント	3-6
表 3-2	Cisco IP SoftPhone 各種アイコン	3-8
表 3-3	状況依存ボタンバー	3-9
表 3-4	音量の調節	3-14
表 3-5	[ミュート] ボタンおよび [ミュート] アイコン	3-15
表 3-6	通話ログ データ	3-39
表 3-7	詳細設定	3-42
表 4-1	コラボレーション用チェックリスト	4-2
表 4-2	アプリケーション共有の各種制御	4-6



このマニュアルについて

ここでは、このマニュアルの目的、対象読者、マニュアルの構成、および表記法について説明します。また、関連資料についても紹介します。

ここで説明する内容は、次のとおりです。

- 目的 (P xiii)
- 対象読者 (P xiv)
- マニュアルの構成 (P xiv)
- 関連資料 (P xv)
- システム要件 (P xv)
- 表記法 (P xvi)
- Cisco 資料へのアクセス (P xviii)

目的

このマニュアルでは、Cisco IP SoftPhone をインストールと設定する手順について説明します。また、IP SoftPhone の使用法についても説明します。次のような場合に、このマニュアルは役に立ちます。

- Cisco IP SoftPhone のコンポーネントと機能を理解する
- ユーザの Windows PC に Cisco IP SoftPhone をインストールし、設定する
- IP ネットワーク上でコールを発信、受信、およびコントロールするために、Cisco IP SoftPhone を使用する

対象読者

このマニュアルは、PC のデスクトップから電話の発着信や、コラボレーションを行い、また Cisco IP Phone を PC のデスクトップから制御する、コンピュータユーザ向けに記述されています。

マニュアルの構成

このマニュアルの構成は、次のとおりです。

章	説明
第 1 章	「Cisco IP SoftPhone の紹介」 Cisco IP SoftPhone の機能、コンポーネント、およびシステム要件を説明しています。
第 2 章	「Cisco IP SoftPhone のインストールと使用開始」 Cisco IP SoftPhone をインストールする手順と、その使い方を紹介しています。
第 3 章	「Cisco IP SoftPhone の使用」 Cisco IP SoftPhone を使用して、デスクトップ PC 上の電話から発着信する方法、および固定 IP Phone をコントロールする方法を説明しています。
第 4 章	「バーチャル会議室でのコラボレーション」 Cisco IP SoftPhone のデスクトップ コラボレーション機能の使用法を説明しています。
付録 A	「トラブルシューティング」 Cisco IP SoftPhone の使用時によく経験する可能性のある、共通の問題をトラブルシューティングする手順を説明しています。

関連資料

Cisco IP SoftPhone、および Cisco CallManager に関連する情報は、このマニュアル以外にも、次のマニュアルで説明しています。これらのマニュアルは、www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/ 上でオンラインでもご覧いただけます。

- *Cisco IP SoftPhone Administrator Guide*
- *Cisco IP SoftPhone Quick Start Guide*
- *Cisco IP SoftPhone Release Notes*
- *Cisco CallManager Systems Guide*

システム要件

Cisco IP SoftPhone は、次の Microsoft Windows プラットフォームの日本語版、英語版、フランス語版、およびドイツ語版で利用できます。

- Windows 95
- Windows 98 SE
- Windows ME
- Windows NT 4.0 で Service Pack 4 以上。
- Windows 2000

表記法

このマニュアルでは、次の表記法を使用しています。

表記法	説明
boldface フォント	コマンドおよびキーワードはボールド体で表します。
<i>italic</i> フォント	ユーザが入力する引数はイタリック体で表します。
[]	角カッコ内の要素は、省略が可能です。
{ x y z }	どれかを選択すべき必須キーワードは、波カッコで囲み、縦棒で区切って表します。
[x y z]	どれかを選択できるオプションのキーワードは、角カッコで囲み、縦棒で区切って表します。
string	引用符を含まない文字列です。文字列には引用符を含めないでください。引用符があると、その引用符は文字列の一部とみなされます。
screen フォント	端末セッションおよびシステムが表示する情報は、スクリーンフォントで表します。
boldface screen フォント	ユーザが入力すべき情報は、 ボールド体スクリーンフォント で表します。
<i>italic screen font</i>	ユーザが入力する引数はイタリック体スクリーンフォントで表します。
→	このポインターは、例文中の重要な行やテキストを強調表示します。
^	^記号は、Control キーを表します。たとえば、画面に示される ^D というキーの組み合わせは Control キーを押しながら D キーを押すことを意味します。
< >	パスワードのように表示されない文字は、かぎカッコで囲んで表します。

「注」では、次の表記法を使用しています。



(注)

「注釈」の意味です。役立つ情報や、このマニュアル以外の参考資料などを紹介しています。

ワンポイント・アドバイスは、次の表記法を使用しています。



ワンポイント・アドバイス

「作業を簡単にする方法」の意味です。ここに紹介している方法で行うと、作業が簡単になります。

ヒントでは、次の表記法を使用しています。



ヒント

「便利なヒント」という意味です。

「注意」は、次の表記法を使用しています。



注意

「要注意」の意味です。この状況では、機器が損傷したり、データが失われる可能性がありますので、注意が必要です。

「警告」は、次の表記法を使用しています。



警告

安全上の「警告」の意味です。人身事故を予防するための注意事項が記述されています。機器の作業を行うときは、電気回路の危険性および一般的な事故防止対策に十分注意してください。

Cisco 資料へのアクセス

Cisco Systems 社の製品資料は、次の World Wide Web 上でもご覧いただけます。

- <http://www.cisco.com/jp>
- <http://www.cisco.com>
- <http://www-china.cisco.com>
- <http://www-europe.cisco.com>



Cisco IP SoftPhone の紹介

Cisco IP SoftPhone は、PC のデスクトップ上に導入するアプリケーションです。お客様がお使いの PC にこの IP SoftPhone を導入すると、お使いの PC は多機能を備えた電話機に早変わりします。このデスクトップ上の IP SoftPhone から、コールトラッキング、デスクトップ コラボレーション、オンライン ディレクトリからのワンクリックでダイヤルするなどといった便利な機能が利用できるようになります。また、PC のデスクトップ上の Cisco IP SoftPhone は、どれかの固定 Cisco IP Phone と連動させて使用することも可能です。固定 IP Phone のコールに対する発着信やその他の処理は、この IP SoftPhone から制御することが可能になります。IP SoftPhone を使用するモードには後述する 2 通りありますが、すべての機能はどの操作モードでも使用できます。

以下のセクションでは、Cisco IP SoftPhone の機能、コンポーネント、およびシステム要件を説明しています。

- Cisco IP SoftPhone をスタンドアロン型の電話機として使用 (P 1-3)
- IP SoftPhone を Cisco IP Phone の制御に使用 (P 1-4)
- Cisco IP SoftPhone を英語以外の言語で使用 (P 1-4)
- オンラインダイヤリングとオンラインディレクトリ (P 1-5)
- 通話ログトラッキング (P 1-6)
- 音声会議 (P 1-6)
- バーチャル会議室とのデスクトップ コラボレーション (P 1-7)
- ボイスメールの統合 (P 1-11)
- Cisco E911 サービスのサポート (P 1-11)
- ネットワーク コンポーネント (P 1-12)

- システム要件 (P 1-13)
- サポートする標準 (P 1-14)

図 1-1 では、Cisco IP SoftPhone の主要なコンポーネントを示します。

図 1-1 Cisco IP SoftPhone



Cisco IP SoftPhone をスタンドアロン型の電話機として使用

Cisco IP SoftPhone をスタンドアロン型の電話機として使用すると、固定 Cisco IP Phone を使用しなくても、ご使用の PC からすべてのコールに対する発信と着信が可能になります。このスタンドアロンのモードでは、メディアストリームは、ユーザの PC で終端します。すなわち、着信コールがあると、ユーザの PC で呼び出し音が「鳴り」ますので、ユーザはそのコールに PC のハンドセットかヘッドセットを使用して対応することができます。マイクとスピーカの音量は、Cisco IP SoftPhone 上のユーザ インターフェイスから調節します。

Cisco IP SoftPhone をスタンドアロン型電話機として使用している場合は、ユーザは本人の内線を持ち歩いているようなもので、自社のネットワークに接続さえされていれば、どこからでも本人宛のコールに応答することができます。例えば、出張の場合でも、その出張先で Cisco IP SoftPhone をオンラインで使用して、コールの発信や受信、またはボイスメールのチェックが可能です。

Cisco IP SoftPhone をスタンドアロン型電話機として使用するには、ユーザの PC に全二重対応のサウンドカードを装着し、ドライバを正しくインストールした上で、コンピュータ用のヘッドセット、またはハンドセットを接続する必要があります。エコーの原因になる可能性があるため、PC の内蔵スピーカは使用しないようにお勧めします。

関連トピック

- IP SoftPhone を Cisco IP Phone の制御に使用 (P 1-4)
- Cisco IP Phone 回線の選択 (P 3-4)

IP SoftPhone を Cisco IP Phone の制御に使用

Cisco IP SoftPhone は、固定 Cisco IP Phone と連動させて使用することもできます。この連動により、PC、または Cisco IP Phone からコールを柔軟に制御することができます。コール状況は、両方の電話機に同じように反映されます。

例えば、Cisco IP Phone のハンドセットを取り上げて着信コールに応答し、Cisco IP SoftPhone のアプリケーションからそのコールを保留にすることができます。コールが保留されたことは、Cisco IP Phone と Cisco IP SoftPhone の両方に同じように反映されます。

この制御モードでは、メディアストリームは、Cisco IP Phone で終了します。すなわち、着信コールがあると、呼び出し音は Cisco IP Phone で鳴り、そのコールには、Cisco IP Phone のハンドセットを使用して応答する必要があります。また、マイクロフォンとスピーカの音量は、Cisco IP SoftPhone からではなく、Cisco IP Phone 上の音量ボリュームから調節します。

関連トピック

- Cisco IP SoftPhone をスタンドアロン型の電話機として使用 (P 1-3)
- Cisco IP Phone 回線の選択 (P 3-4)

Cisco IP SoftPhone を英語以外の言語で使用

Cisco IP SoftPhone では、日本語、英語、フランス語およびドイツ語で利用できません。

インストール中に、Cisco IP SoftPhone で利用する言語を選択することができます。インストール後は、Cisco IP SoftPhone の GUI およびダイアログボックス内のテキストは、インストール時に選択した言語で表示されます。

Cisco IP SoftPhone が立ち上がっているときは、いつでも別の言語に切り替えることができます。

関連トピック

- 詳細設定 (P 3-40)

オンラインダイヤリングとオンラインディレクトリ



Cisco IP SoftPhone では、ディレクトリ サーバ、Web ページ、またはユーザのコンピュータ キーボードから電話をかけることができます。IP SoftPhone は Cisco CallManager で使用されるディレクトリ サービスと統合されているため、社内の電子電話帳とも呼べるディレクトリから、ある人の名前をダイヤリング ウィンドウにドラッグするだけで発信ができます。電話会議で参加者を招集する場合でも、そのディレクトリから名前をダイヤリング ウィンドウにドラッグするだけです。

通話中の電話を個人用ディレクトリにドラッグするだけで、名前をディレクトリに追加することができます。Cisco IP SoftPhone は、発信者 ID を自動的にユーザのディレクトリに追加します。

関連トピック

- 英数字の変換 (P 1-5)
- ダイヤリング ディレクトリの使用 (P 3-34)
- オンラインディレクトリからのダイヤル (P 3-18)

英数字の変換

Cisco IP SoftPhone は、英数字のダイヤリング文字列をキーパッドの数字に変換します。例えば、ユーザが 1-800-GOCISCO と入力すると、Cisco IP SoftPhone はこのダイヤル文字列を 1-800-462-4726 へ正しく変換します。値「Q」と「Z」の文字は、それぞれ「7」と「9」に変換されます。

通話ログトラッキング



電話の発着信があると、Cisco IP SoftPhone には、発信元のアドレス、発信者名、電話番号が通話中に表示されています。この情報は、通話ログとして残されません。通話ログを見ると、発信先が応答しなかった場合も含め、ユーザの最新の発信ログをいつでも調査することができます。通話ログには、発信や着信のあった回線、通話時間、通話の種類、通話の終了状況がログとして残されます。

関連トピック

- 通話ログを調べる (P 3-39)

音声会議



Cisco IP SoftPhone では、音声会議は [会議] ボタンをクリックするか、ディレクトリ エントリをアクティブのコールブロックにドラッグするだけで、開始できます。Cisco IP SoftPhone は、音声会議に必要な機能を備えています。また、音声会議には 6 人までが参加できます。その上、全二重音声をサポートしているため、参加者は同時に発言ができます。

音声会議が確立した後は、いつでも参加者を追加することができます。参加者に音声会議への参加を要請すると、ロースタ名簿が更新され、現在会議に参加している人のリストが示されます。

関連トピック

- 音声会議の開始 (P 3-30)
- 会議に参加者を追加 (P 3-31)
- 会議から退出 (P 3-31)
- ロースタ名簿の使用 (P 4-3)

バーチャル会議室とのデスクトップ コラボレーション



Cisco IP SoftPhone には、バーチャル会議室 (Virtual Conference Room) というデスクトップ コラボレーション ユーティリティが組み込まれています。このバーチャル会議室では、どの参加者にも全員の発言が聞え、特定の資料やアプリケーションを共有することや、ホワイトボードを共有できるオンラインの会議を召集することができます。バーチャル会議室用のプログラムは 1 台のコンピュータだけにインストールされていればよく、どの参加者もオンライン会議で使用する資料を手元で制御する権利が与えられます。また、Microsoft NetMeeting と統合する場合は、ビデオをはじめ、各種のコラボレーションに対応できます。

以下のセクションでは、Cisco IP SoftPhone のバーチャル会議室デスクトップ コラボレーション機能について説明します。

- ホワイトボード機能 (P 1-7)
- アプリケーションと資料の共有 (P 1-9)
- チャット (P 1-9)
- ビデオ コラボレーション (P 1-10)
- 第 4 章「バーチャル会議室でのコラボレーション」

ホワイトボード機能



バーチャル会議室のホワイトボード アプリケーションを使用すれば、通話や音声会議室の参加者全員が、共有画面に図や文字の書き込みが同時にできます。ユーザが [ホワイトボード] ボタンを押すと、その会議通話に参加している全員の PC の画面にホワイトボードが表示されます。ホワイトボード アプリケーションには、ホワイトボードのページの追加と削除、図の描き込み、テキストの入力、ハイライトやリモートポインタによるアイテムを強調する各種のツールが含まれています。

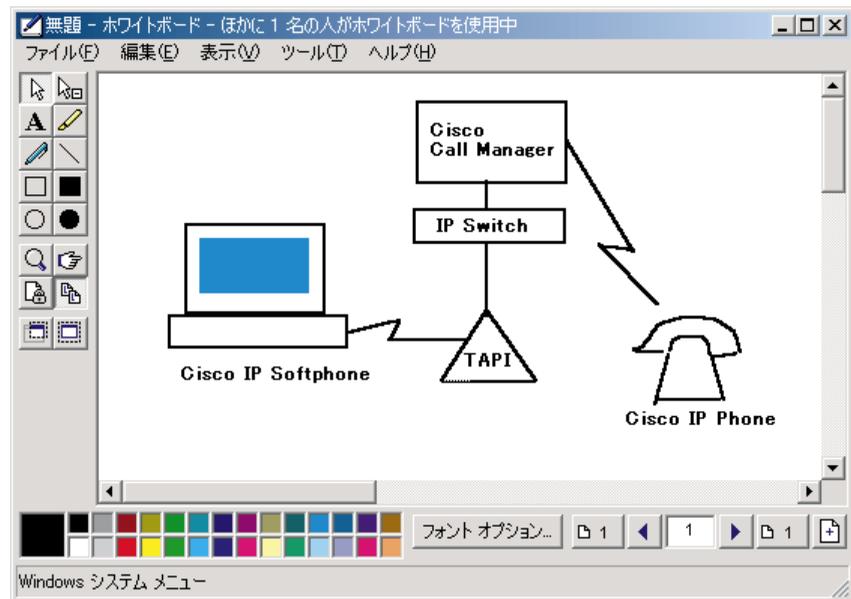
また、ホワイトボード アプリケーションを使用して、ホワイトボードとそのほかのプログラムとの間で様々なアイテムをコピーしたりペーストしたりできます。さらに、ホワイトボードのツールを使用して、オブジェクトの図を描いて発表することもできます。会議の参加者は、発表者のデスクトップにアクセスしなくても、各自の PC で発表者の図を見ることができます。

図 1-2 に、ホワイトボード セッションの例を示します。

関連トピック

- ロースタ名簿の使用 (P 4-3)
- ホワイトボード セッションの開始 (P 4-12)
- ホワイトボード セッションの終了 (P 4-13)
- ホワイトボードの同期 (P 4-14)
- バーチャル会議室でのコラボレーション (P 4-1)

図 1-2 ホワイトボード セッションの例



44231

アプリケーションと資料の共有

バーチャル会議室アプリケーションと資料の共有機能により、会議に参加している人は同時にファイルを見ながら作業することができます。例えば、複数の人に Microsoft Word のドキュメントで同時に作業をしてもらいたい場合があります。このような場合は、そのドキュメントの発案者が自分のコンピュータで開くだけでドキュメントの共有が可能となり、参加者各自がコメントを直接書き込むことができます。ファイルを開くアプリケーションは、ファイルを開く人のコンピュータ以外には必要ありません。ほかの参加者は、アプリケーションをインストールしていなくても、共有しているドキュメントで作業ができます。会議通話中は、そのアプリケーションを参加者全員で共有します。各参加者が共有している複数のアプリケーションは、他の参加者のデスクトップ画面に個別のウィンドウとして表示されます。

関連トピック

- コラボレーション用チェックリスト (P 4-1)
- ロースタ名簿の使用 (P 4-3)
- アプリケーション共有ウィンドウの使用 (P 4-5)
- 資料の共有セッションの開始 (P 4-7)
- 資料のコントロール権の移行 (P 4-9)
- 資料のコントロール権の要求 (P 4-11)
- 資料の共有セッションの終了 (P 4-11)

チャット

Cisco IP SoftPhone は、Microsoft NetMeeting チャットアプリケーションと統合されており、音声通話やビデオ通話中に、参加者全員や限られた参加者にテキストメッセージを送信することができます。チャットでは、参加者全員が同時にしかも相互に「話す」ことができるため、グループミーティングに適しています。音声通話やビデオ通話では、一度に 2 人の参加者しか話すことができません。

関連トピック

- チャットメッセージの送信 (P 4-15)

ビデオ コラボレーション

Cisco IP SoftPhone は、Microsoft NetMeeting と統合されており、ビデオ会議を召集することが可能です。映像を送信できない場合でも、NetMeeting のビデオウィンドウにはビデオの受信はできます。

映像を使用するか NetMeeting インターフェイスを使用するか選択するには、バーチャル会議室を無効にする必要があります。バーチャル会議室を無効にする方法については、「ビデオ コラボレーション セッションの準備」(P 4-17) を参照してください。バーチャル会議室を無効にした後は、Cisco IP SoftPhone から NetMeeting のユーザ インターフェイスを使用して発信が可能になります。

NetMeeting のビデオ コラボレーション機能の詳しい使用方法は、Microsoft NetMeeting のオンラインヘルプおよび資料を参照してください。

関連トピック

- ビデオ コラボレーション セッションの準備 (P 4-17)

ボイスメールの統合



Cisco IP SoftPhone は、ユーザのボイスメール システムと統合されています。この統合により、ボイスメールボックスに直接、通話を転送したり発信したりできます。ボックスにボイスメッセージが到着しているときは、メッセージの確認を行うまで、Cisco IP SoftPhone アイコンバーの [音声メッセージ] アイコンが赤で表示されています。ユーザのボイスメールボックスにダイヤルするには、[音声メッセージ] アイコンをクリックするだけです。

関連トピック

- ボイスメールの使用 (P 3-27)
- 着信コールのボイスメールへの送信 (P 3-21)

Cisco E911 サービスのサポート

Cisco IP SoftPhone 1.2 では、Cisco E911 サービスに対するサポートが組み込まれています。Cisco E911 サービスでは、電話番号やその所在場所といった発信者情報などを 911 番の通信指令担当者に提供します。Cisco IP SoftPhone with Cisco E911 サービスを使用するには、Cisco CallManager 3.1 および Cisco CallManager が Cisco E911 をサポートするように設定しておく必要があります。Cisco E911 サービスが利用できるか不明の場合は、システム管理者にお問い合わせください。

ネットワーク コンポーネント

Cisco IP SoftPhone は、Cisco CallManager のサービスを使用して、IP テレフォニ ネットワーク内を経由するコールのルーティングを制御します。

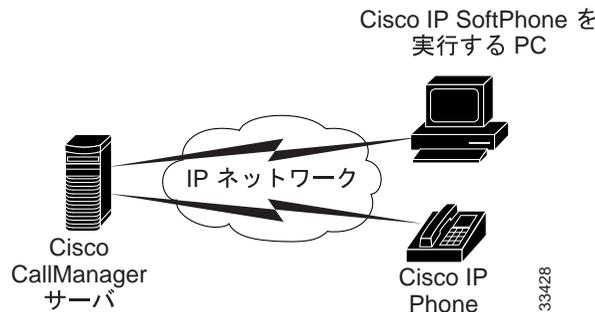
Cisco CallManager の機能は、オープンで業界標準のコールプロセッシングシステム で、従来型の PBX の機能性を企業ネットワークと統合しています。

Cisco CallManager は、IP テレフォニ システムの各種コンポーネント、IP phone、ゲートウェイへのアクセス、および電話会議やルーティングプランなどフィーチャに必要なりソースを管理しています。

システム管理者が事前に Cisco CallManager でユーザ用の回線を指定してあり、またアクセス権も割り当ててある場合に限り、ユーザは Cisco IP SoftPhone から電話の発着信が可能になります。

図 1-3 に、Cisco IP SoftPhone に必要なネットワーク コンポーネントのダイアグラムを示します。

図 1-3 Cisco IP SoftPhone と Cisco IP テレフォニ ネットワーク



システム要件

表 1-1 では、クライアント PC に Cisco IP SoftPhone を導入し、その PC から IP SoftPhone を使用する際の、システムおよびネットワークの要件をリストしています。

表 1-1 Cisco IP SoftPhone に対するハードウェア要件およびソフトウェア要件

項目	要件	注
オペレーティング システム	Microsoft Windows 95、Windows 98 SE、Windows NT 4.0 (SP 4 以降)、Windows 2000	日本語版、英語版、フランス語版、およびドイツ語版のみ。
ハードディスクの空き容量	40 MB	
一時ハードディスクの空き容量	60 MB	このうち、20 MB はインストール時に限り使用します (TEMP ディレクトリ)。
プロセッサ (CPU)	Pentium 266 MHz	Pentium 166MHz MMX は、電話コントロールモードでだけ使用する場合は十分です。
メモリ	64 ~ 128MB の RAM	どの機能がアクティブになっているかによって異なります。
インターネット用ブラウザ	Microsoft Internet Explorer 4.01 以降。または、Internet Explorer 4.01 以降がインストールされている場合は、Netscape Navigator 4.06 以降でも可。	Cisco IP SoftPhone を使用するにはインターネット用ブラウザは必要ありませんが、Microsoft Internet Explorer に搭載されている Java パーチャル マシン (JVM) が必要です。ウェブ経由で Cisco IP SoftPhone をインストールする場合は、インターネット用ブラウザが必須です。
サウンドカード	Microsoft Windows 対応の全二重サウンドカード	USB ¹ 接続のマイクロフォンとヘッドセットを使用する場合は、サウンドカードを追加する必要はありません。

表 1-1 Cisco IP SoftPhone に対するハードウェア要件およびソフトウェア要件 (続き)

項目	要件	注
コンピュータ ヘッドセットまたは ハンドセット	PC 互換のヘッドセットまたはハンドセット (マイクロフォンとヘッドフォン)	<p>Cisco IP SoftPhone をスタンドアロンとして使用する場合は、必須です。Cisco IP Phone の制御に Cisco IP SoftPhone を使用する場合は、ヘッドセットやハンドセットは必要ありません。</p> <p>Cisco IP SoftPhone は、Plantronics 製のヘッドセットに対応しています。Plantronics 製のヘッドセットの詳細情報は、次の URL でご覧になれます。headset:</p> <p>http://cisco.getheadsets.com</p>
Microsoft NetMeeting クライアントアプリケーション	Version 3.01	デスクトップ コラボレーションを使用する場合は、必須です。NetMeeting バージョン 3.01 は、Cisco IP SoftPhone をインストールすると、自動的にインストールされます。

1. ユニバーサルシリアルバス (USB)

サポートする標準

シスコ IP SoftPhone は、次のネットワーキング、テレフォニー標準をサポートしています。

- Telephony Application Programming Interface (TAPI) 準拠
- T.120 (ネットワーキングの統合を介してサポート)
- H.323
- G.711、G.723.1、および G.729a の各コーデックをサポート



Cisco IP SoftPhone のインストール レーションと使用開始

Cisco IP SoftPhone は、社内のイントラネットの Web ページからインストールすることができます。インターネットにアクセスできないか、何らかの理由で Web ページからインストールができない場合は、ローカルで自己解凍形式の実行プログラムをダウンロードしてインストールを実行することができます。その他にも、CD-ROM から Cisco IP SoftPhone をインストールすることもできます。

インストールは短時間で済み、手間もかからず、設定もほとんど必要ありません。システム管理者がアドミニストレータ設定ファイルに設定情報を事前に用意してある場合は、インストール後ただちに Cisco IP SoftPhone を使用することができます。

以下のセクションは、Cisco IP SoftPhone の準備、インストール、および使用を開始する際に役立ちます。

- Cisco IP SoftPhone のインストール (P 2-2)
- Cisco IP SoftPhone の始動 (P 2-14)
- Cisco IP SoftPhone の終了 (P 2-16)

Cisco IP SoftPhone のインストール

Cisco IP SoftPhone をインストールする場合は、システム管理者がどのように Cisco IP SoftPhone をネットワーク上に設定してあるかにより、次の手順から選択します。

- Web ページからインストール (P 2-2)
- 自己解凍形式の実行プログラムからインストール (P 2-4)
- CD-ROM からインストール (P 2-7)

Web ページからインストール

社内のイントラネット Web ページから Cisco IP SoftPhone をインストールする手順は、次のとおりです。



(注) この手順は、Cisco IP SoftPhone 管理者が事前に「ワンクリック インストール」機能を設定してある場合だけ使用できません。

始める前に

- Microsoft Windows Internet Explorer 4.01 以降をインストールします。
Internet Explorer は、次 Microsoft の Web サイトからダウンロードが可能です。
<http://www.microsoft.com/windows/ie/>
- 次の情報については、ネットワーク管理者またはシステム管理者にお問い合わせください。
 - Cisco IP SoftPhone 用インストール ファイルが存在する URL。
 - Cisco CallManager で設定するユーザアカウントのユーザ名とパスワード。

手順

- ステップ 1 Web ブラウザを開き、Cisco IP SoftPhone インストール ファイルが存在する場所を指定します。

- ステップ 2 Netscape Communicator を使用している場合、Java Security ウィンドウの [Grant] をクリックしてください。
- ステップ 3 Cisco IP SoftPhone で表示させたい言語を選択します。
- ステップ 4 [インストールする] ボタンをクリックします。
- ステップ 5 ソフトウェア発行元証明書を読み、信頼する場合は、[次へ] をクリックしてください。
- ステップ 6 Cisco IP SoftPhone を初めてインストールする場合は、次の確認をしてください。
- [よろこそ] 画面で [次へ] をクリックすると、インストールが開始します。
 - ソフトウェア使用許諾契約書を読み、[はい] をクリックすると、契約の各条項に同意したものと見なされます。
 - Cisco IP SoftPhone のインストール先を指定し、[次へ] をクリックします。
- Cisco IP SoftPhone のバージョンをアップグレードしている場合は、[新しいバージョンにアップグレードする] を選択し、[よろこそ] 画面の [次へ] をクリックします。
- ステップ 7 ローカル TSP の設定画面で、ユーザ名とパスワードを入力します。続いて、[次へ] ボタンをクリックします。



(注) Cisco IP SoftPhone 用に設定するユーザ名とパスワードは、Cisco CallManager で割り当てられている同一のユーザ名とパスワードを使用する必要があります。

- ステップ 8 Cisco IP SoftPhone を初めてインストールする場合は、インストーラがアイコンを追加するプログラムフォルダを選択します。
- デフォルトでは、インストーラには Cisco IP SoftPhone というフォルダにアイコンを追加する設定になっています。
- ステップ 9 [次へ] をクリックして、画面に表示される指示に従います。

ステップ 10 インストール ウィザードの完了ダイアログウィンドウで、すぐにコンピュータを再起動するか、後で再起動するかを選択します。[完了] をクリックすると、インストールは完了します。

Cisco IP SoftPhone の使用を開始するには、コンピュータを再起動する必要があります。

自己解凍形式の実行プログラムからインストール

自己解凍形式の実行プログラムから Cisco IP SoftPhone をインストールする場合は、次の手順を実行します。この形式のインストールでは、Cisco IP SoftPhone 用のプログラムをローカルのハードディスクにダウンロードしておき、その後でプログラムをインストールすることができます。

始める前に

- Microsoft Windows Internet Explorer 4.01 以降をインストール。
Internet Explorer は、次 Microsoft の Web サイトからダウンロードが可能。
<http://www.microsoft.com/windows/ie/>
- 次の情報については、ネットワーク管理者またはシステム管理者に問い合わせる。
 - Cisco IP SoftPhone 用インストール ファイルが存在する URL。
 - Cisco CallManager で設定するユーザ アカウントのユーザ名とパスワード。

手順

ステップ 1 Web ブラウザを開き、Cisco IP SoftPhone インストール ファイルが存在する場所を指定します。

ステップ 2 Netscape Communicator を使用している場合、[Java Security] ウィンドウの [Grant] をクリックしてください。

ステップ 3 Cisco IP SoftPhone をインストールする際に使用する言語をクリックします。

ステップ 4 [Cisco IP Phone のインストールファイルをダウンロード] をクリックします。

[Cisco IP Phone ダウンロード] ウィンドウが表示され、そのウィンドウには Cisco IP SoftPhone カスタマイズ ファイルが存在する URL が表示されています。

ステップ 5 この URL をメモしておいてください。ステップ 13 で必要になります。

ステップ 6 ここで、[Cisco IP SoftPhone] をクリックしてください。自己解凍形式の実行ファイルのダウンロードが始まります。

ステップ 7 この [ファイルダウンロード] ウィンドウから、[Run this program from its current location] か、[Save this program to disk] のどちらかを選択します。続いて、[OK] をクリックします。

[Run this program from its current location] を選択した場合は、ステップ 10 にすすんでください。

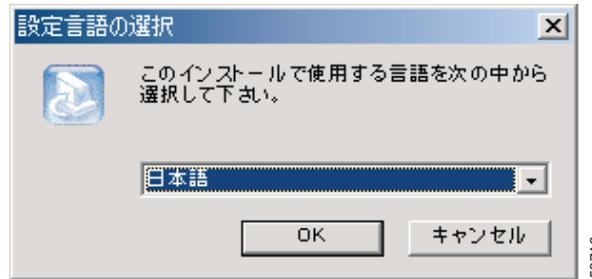
ステップ 8 ダウンロードするファイルの保管先を選択した後で、[保存] をクリックします。

ステップ 9 ダウンロードの完了ウィンドウが表示されます。その画面から手順を 1 つ選択します。

- CiscoIPSoftPhoneSetup.exe から起動するには、[ファイルを開く] をクリックします。
- フォルダから CiscoIPSoftPhoneSetup.exe を起動するには、[フォルダを開く] をクリックします。
- CiscoIPSoftPhoneSetup.exe を後で起動する場合は、[閉じる] をクリックします。

ここで、図 2-1 に示すダイアログボックスが表示されます。

図 2-1 設定言語の選択



ステップ 10 インストール画面で使用する言語を選択し、[OK] をクリックします。

ステップ 11 ダウンロードしたインストールファイルを保存するフォルダを選択し、[保存] をクリックします。

ステップ 12 Cisco IP SoftPhone を初めてインストールする場合は、次の確認をしてください。

- a. [ようこそ] 画面で [次へ] をクリックすると、インストールが開始します。
- b. ソフトウェア使用許諾契約書を読み、[はい] をクリックすると、契約の各条項に同意したものと見なされます。
- c. Cisco IP SoftPhone のインストール先を指定し、[次へ] をクリックします。

Cisco IP SoftPhone を新しいバージョンにアップグレード中の場合は、[新しいバージョンにアップグレードする] を選択し、[ようこそ] 画面の [次へ] をクリックしてください。

ステップ 13 「設定」ウィンドウからカスタマイズファイルが存在する URL を指定します。



注意

URL の指定が不正確の場合は、Microsoft NetMeeting 3.01、Cisco TSP および Cisco IP SoftPhone の設定などのカスタマイズファイルを受け取れなくなります。Cisco IP SoftPhone を作動させるには、このカスタマイズファイルが必須です。

ステップ 14 Local TSP の設定画面で、ユーザ名とパスワードを入力します。



(注) Cisco IP SoftPhone 用に設定するユーザ名とパスワードは、Cisco CallManager で割り当てられている同一のユーザ名とパスワードを使用する必要があります。

ステップ 15 [次へ] をクリックします。

ステップ 16 Cisco IP SoftPhone を初めてインストールする場合は、インストーラがアイコンを追加するプログラム フォルダを選択します。

デフォルトでは、Cisco IP SoftPhone というフォルダにアイコンが追加される設定になっています。

ステップ 17 画面上の指示に従ってください。

ステップ 18 インストールウィザードの [完了] ダイアログウィンドウで、すぐにコンピュータを再起動するか、後で再起動するかを選択します。[完了] をクリックすると、インストールは完了します。

Cisco IP SoftPhone の使用を開始するには、コンピュータを再起動する必要があります。

CD-ROM からインストール

CD-ROM から Cisco IP SoftPhone をインストールする場合は、この手順を実行してください。

始める前に

- Microsoft Windows Internet Explorer 4.01 以降をインストール。
Internet Explorer は、Microsoft の Web サイト からダウンロードが可能。
<http://www.microsoft.com/windows/ie/>

- 次の情報については、ネットワーク管理者またはシステム管理者に問い合わせる。
 - Cisco CallManager で設定するユーザ アカウントのユーザ名とパスワード。
 - Cisco IP SoftPhone のインストールで使用するカスタマイズ ファイルが存在する場所 (ファイルが存在する場合)。
 - Cisco IP SoftPhone は、Cisco CallManager 3.1 または Cisco CallManager 3.0.6 と連動して設定されているかの確認。

Cisco CallManager 3.1 と連動の場合 :

- Cisco CallManager 使用予定のプライマリおよびバックアップ用の CTI IP Manager アドレス
- Cisco CallManager 上で Cisco E911 サービスが設定されているかの確認。
- Cisco E911 が設定済みの場合は、Cisco IP SoftPhone 用のプライマリおよびバックアップサーバの URL。



(注) Cisco E911 サービスの情報は、「Cisco E911 サービスのサポート」(P 1-11) を参照してください。

Cisco CallManager 3.0.6 との連動の場合 :

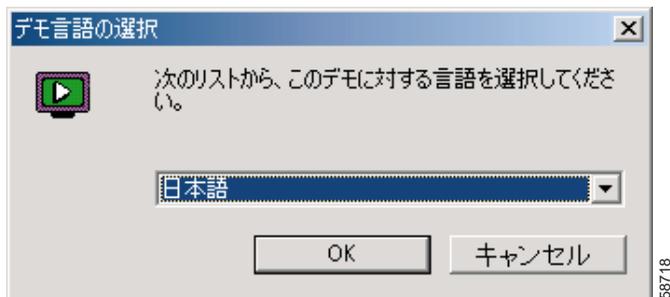
- 使用予定の Cisco CallManager サービスの IP アドレス。

手順

ステップ 1 導入用 CD-ROM を挿入して **Launch.exe** を起動すると Cisco IP SoftPhone のインストールが開始します。

ステップ 2 図 2-2 で示す [デモ言語の選択] ウィンドウから、インストールウィンドウで使用する言語を選択します。続いて [OK] をクリックします。

図 2-2 デモ言語の選択

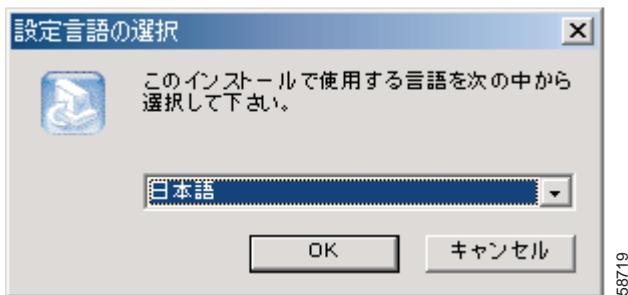


ステップ 3 [製品インストール] をクリックします。

ステップ 4 [Cisco IP SoftPhone] ボタンをクリックします。

ここで、図 2-3 に示すダイアログボックスが表示されます。

図 2-3 Cisco IP SoftPhone の言語の選択



ステップ 5 Cisco IP SoftPhone にインストールする言語をドロップダウンメニューから選択して、[OK] をクリックします。

InstallShield ウィザードが起動し、インストールの準備が始まります。

ステップ 6 [ようこそ] 画面で [次へ] をクリックすると、インストールが開始します。

ステップ 7 ソフトウェア使用許諾契約書を読み、[はい] をクリックすると、契約の各条項に同意したものと見なされます。

ステップ 8 Cisco IP SoftPhone のインストール先を指定し、[次へ] をクリックします。

デフォルトでは、Cisco IP SoftPhone は、次のディレクトリにインストールされます。

C:\...\Cisco Systems\Cisco IP SoftPhone

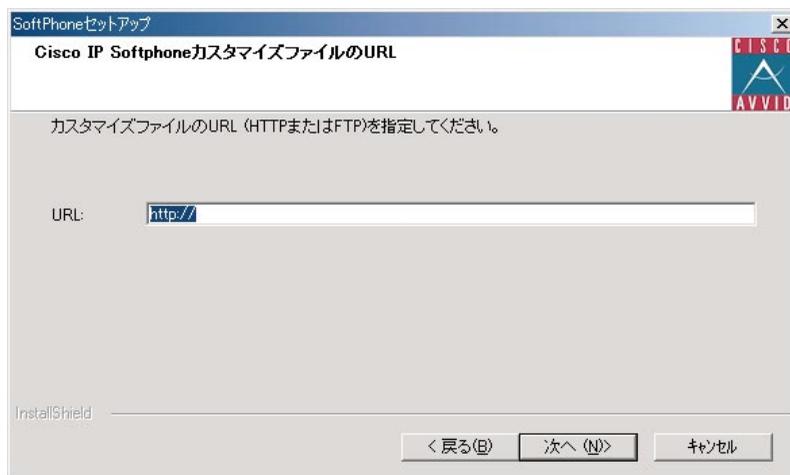
ステップ 9 カスタマイズ ファイルを使用する場合 :

- カスタマイズ ファイルが存在する URL を入力し、[次へ] をクリックします。図 2-4 を参照してください。

カスタマイズ ファイルを使用しない場合 :

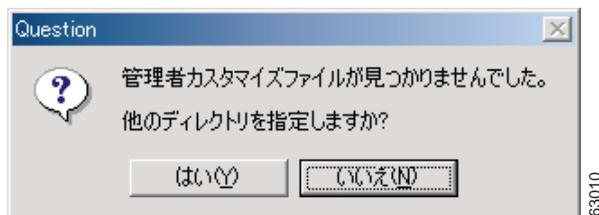
- URL フィールドを空欄のまま、[次へ] をクリックします。
図 2-5 に示される [Question] ボックスが表示されます。
- [いいえ] をクリックします。

図 2-4 カスタマイズ ファイルの所在場所の指定



63008

図 2-5 カスタマイズ ファイルを使用しない場合のインストール



ステップ 10 E911 サービスが Cisco CallManager 上に設定済みの場合：

- 図 2-6 に示す [Question] ボックスで、[はい] をクリックします。
- プライマリおよびバックアップ用 E911 サーバの URL を入力し、[次へ] をクリックします。

E911 サービスが Cisco CallManager 上で未設定の場合：

- [いいえ] をクリックします。

図 2-6 Cisco IP SoftPhone を E911 用に設定



ステップ 11 図 2-7 に示すように、お使いの CallManager のバージョンが表示されます。ここで [次へ] をクリックしてください。

図 2-7 Cisco CallManager バージョンの選択



63007

ステップ 12 ローカル TSP を設定する場合は、次のいずれかの手順を実行します：

バージョンが **Cisco CallManager 3.1** の場合：

- a. ローカル TSP の設定画面で、ユーザ名とパスワードを入力します。



(注) Cisco IP SoftPhone 用に設定するユーザ名とパスワードは、Cisco CallManager で割り当てられている同一のユーザ名とパスワードを使用する必要があります。

- b. カスタマイズ ファイルを使用しない場合は、Cisco CallManager 用プライマリおよびバックアップ CTI Manager IP アドレスを入力します。

バージョンが **Cisco CallManager 3.0.6** の場合：

- a. ローカル TSP の設定画面で、ユーザ名とパスワードを入力します。



(注) Cisco IP SoftPhone 用に設定するユーザ名とパスワードは、Cisco CallManager で割り当てられている同一のユーザ名とパスワードを使用する必要があります。

- b. カスタマイズ ファイルを使用しない場合は、Cisco CallManager 用の IP アドレスを入力します。

ステップ 13 [次へ] をクリックします。

ステップ 14 インストーラによってアイコンを追加するプログラム フォルダを指定します。

デフォルトの設定では、インストーラは Cisco IP SoftPhone というフォルダにアイコンを追加します。

ステップ 15 画面上の指示に従ってください。

ステップ 16 「インストールウィザードの完了」ダイアログウィンドウで、すぐにコンピュータを再起動するか、後で再起動するかを選択します。[完了] をクリックすると、インストールは完了します。

Cisco IP SoftPhone の使用を開始するには、コンピュータを再起動する必要があります。

Cisco IP SoftPhone の始動

手順

- ステップ 1 Windows のスタートメニューから、**Programs > Cisco IP SoftPhone > Cisco IP SoftPhone** の順に選択します。

Cisco IP SoftPhone の初回始動時に、Microsoft NetMeeting の設定プログラムが起動し、続いて Cisco IP SoftPhone Line 選択ウィンドウが表示されます。図 2-8 を参照してください。続くセッションで、メインダイアリング ウィンドウが開きます。

- ステップ 2 [Microsoft NetMeeting 設定] ウィンドウで、画面の指示に従って、オーディオパラメータの調整とユーザのシステム情報の設定を行います。



(注) Microsoft NetMeeting がすでに設定済みの場合は、このウィンドウは表示されません。



注意

Cisco IP SoftPhone のコラボレーション機能は、Microsoft NetMeeting の設定がされていないと、正しく動作しません。

- ステップ 3 [SoftPhone 回線の選択] ウィンドウで、制御を行う回線（複数指定も可）を選択し、[OK] をクリックします。



(注) [SoftPhone 回線の選択] ウィンドウに回線が全く表示されない場合は、「使用する回線の選択」(P 3-2) を参照してください。

図 2-8 Cisco IP SoftPhone 回線の選択



関連トピック

- Cisco IP SoftPhone の終了 (P 2-16)
- 使用する回線の選択 (P 3-2)
- Cisco IP Phone 回線の選択 (P 3-4)
- Cisco IP SoftPhone を開始しましたが、使用したい回線がまったく見つからないのはどうしてですか。(P A-2)

Cisco IP SoftPhone の終了



Cisco IP SoftPhone は、次のいずれかの方法で終了できます。

- 終了するには、マウスを右クリックし、フローティングメニューから [終了] を選択します。
- また、メインダイヤリングウィンドウの右上の x クリックします。
- キーボードから ALT+F4 キーを押しても終了することができます。



Cisco IP SoftPhone の使用

この章では、Cisco IP SoftPhone を使用して、ユーザの PC から電話の発信、着信、各種の制御を行う方法を説明します。

- 使用する回線の選択 (P 3-2)
- メインダイヤリング ウィンドウの使用 (P 3-5)
- 発信 (P 3-16)
- 通話の終了 (P 3-20)
- 着信への応答 (P 3-20)
- 通話の保留 (P 3-24)
- 通話の転送 (P 3-25)
- ボイスメールの使用 (P 3-27)
- 音声会議の開始 (P 3-30)
- Cisco IP SoftPhone で .wav ファイルの再生 (P 3-32)
- ダイヤリング ディレクトリの使用 (P 3-34)
- 通話ログを調べる (P 3-39)
- 詳細設定 (P 3-40)

使用する回線の選択

Cisco CallManager 上でシステム管理者がユーザに割り当てた回線を選択する手順は、次のとおりです。図 3-1 では、[IP SoftPhone の回線の選択] ウィンドウのエントリ例を示しています。

手順



ステップ 1 [設定] アイコンをクリックします。

ステップ 2 [設定] ダイアログウィンドウの [詳細設定] タブをクリックします。

ステップ 3 [詳細設定] タブの [回線の選択] をクリックします。

ステップ 4 [回線の選択] ダイアログウィンドウで制御する回線（複数選択も可）を選択します。

選択する各回線は、固有の電話番号を割り当てます。同一の番号を複数の回線で共有することはできません。



(注) [回線の選択] ウィンドウに回線が全く表示されない場合は、「Cisco IP SoftPhone を開始しましたが、使用したい回線がまったく見つからないのはどうしてですか。」(P A-2) を参照してください。

ステップ 5 [設定] ダイアログウィンドウを閉じます。

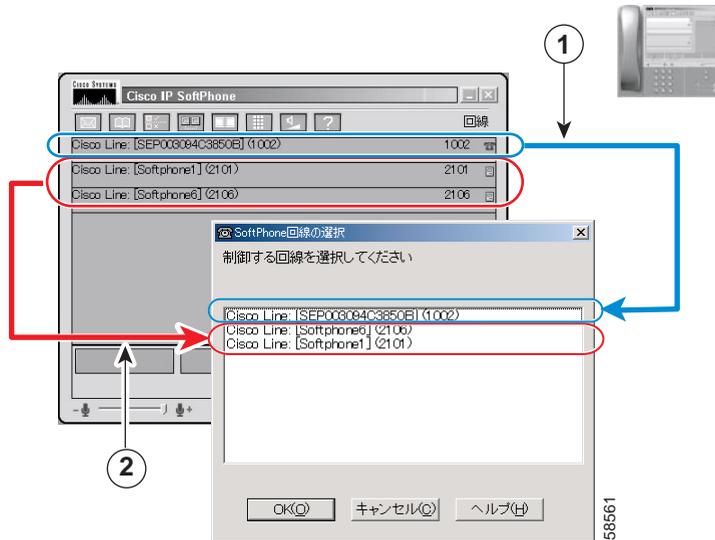
回線に接続されると、メインダイヤリング ウィンドウが表示されます。

関連トピック

- Cisco IP SoftPhone をスタンドアロン型の電話機として使用 (P 1-3)
- IP SoftPhone を Cisco IP Phone の制御に使用 (P 1-4)

- Cisco IP Phone 回線の選択 (P 3-4)
- [回線] ボタン (P 3-11)
- FAQ (よくある質問)(P A-2)

図 3-1 制御する回線の選択



- | | |
|---|---|
| 1 | この回線は、Cisco IP SoftPhone から Cisco IP Phone を制御する場合に選択します。 |
| 2 | この回線は、Cisco IP SoftPhone をスタンドアロン電話として使用する場合に選択します。 |

Cisco IP Phone 回線の選択

複数の回線がユーザ用に Cisco CallManager 上で設定されている場合は、[IP SoftPhone 回線の選択] ウィンドウには、2 種類のエントリが表示されます。

- Cisco IP Phone または Cisco IP SoftPhone に割り当てられているデバイス名と内線番号付きのエントリ。例えば、次のように表示されます。

```
Cisco Line:[CTIPJChamber][52222]
```

- Cisco IP Phone に割り当てられているエントリ MAC (メディア アクセス コントロール) アドレスと内線番号付きのエントリ。例えば、次のように表示されます。

```
Cisco Line:[SEP003049C2B80F][52222]
```

Cisco IP SoftPhone をスタンドアロンの電話機として使用する場合は、Cisco IP Phone または Cisco IP SoftPhone に割り当てられているデバイス名を含むエントリを選択します。

Cisco IP SoftPhone を Cisco IP Phone に接続して使用する場合は、Cisco IP Phone の MAC アドレスを含むエントリを選択します。



(注) Cisco CallManager 上に、複数の回線で同一の内線番号が設定されている場合は、ユーザは、Cisco IP SoftPhone で一度に使用できる回線はそのうちの 1 本に限られます。

関連トピック

- Cisco IP SoftPhone をスタンドアロン型の電話機として使用 (P 1-3)
- IP SoftPhone を Cisco IP Phone の制御に使用 (P 1-4)
- 使用する回線の選択 (P 3-2)
- [回線] ボタン (P 3-11)
- 音声にジッターや途切れが生じる理由を教えてください。(P A-10)

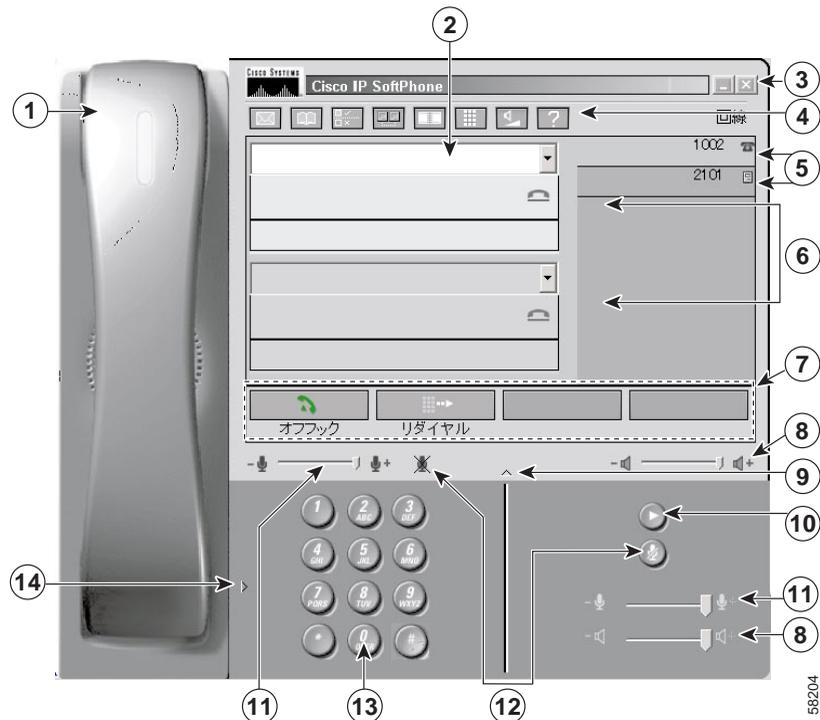
メインダイヤリング ウィンドウの使用

図 3-2 に示すメインダイヤリング ウィンドウには、各種のコールブロック、アイコン、および応答、発信など通話の制御を行うボタンが含まれます。

表 3-1 では、メインダイヤリング ウィンドウ内の各種コンポーネントについて説明します。以下のセクションでは、メインダイヤリング ウィンドウ内の各種の調整の仕方について説明します。

- アイコンバー (P 3-7)
- 状況依存ボタンバー (P 3-9)
- [回線] ボタン (P 3-11)
- 音量の調節 (P 3-12)

図 3-2 メインダイヤリング ウィンドウ (回線を選択した状態)



58204

表 3-1 メインダイヤリングウィンドウのコンポーネント

	コンポーネント	説明
1	ハンドセット	状況に応じて、オフフック状態にするときは、ハンドセットをクリックします。
2	ダイヤリングボックス	通話の発信時に、ここに電話番号を入力します。 ダイヤリングボックスの詳しい使用方法は、「発信」(P 3-16)を参照してください。
3	終了ボタン (Exit)	このボタンをクリックすると、メインダイヤリングウィンドウが閉じ、Cisco IP SoftPhone は終了します。 詳細は、「Cisco IP SoftPhone の終了」(P 2-16)を参照してください。
4	アイコンバー	ユーザのボイスメールボックス、ダイヤリングディレクトリ、各種設定、通話ログ、バーチャル会議室、キーパッド、音量の調節、およびオンラインヘルプを利用する際に、これらのアイコンをクリックします。 詳細は、「アイコンバー」(P 3-7)を参照してください。
5	回線ボタン (Line)	電話をかけるときに使用する回線を選択する場合、これらのボタンをクリックします。[回線]ボタンは、ユーザが現在 Cisco IP SoftPhone で使用している電話番号を表示します。 [回線]ボタンの詳しい使用方法は、「[回線]ボタン」(P 3-11)を参照してください。
6	コールブロック	すべての通話について、その通話先、通話時間 (hh:mm:ss 形式) および通話状態が表示されます。 詳細は、「通話ログを調べる」(P 3-39)を参照してください。
7	状況依存ボタンバー	これらのボタンをクリックすると、現在の通話の状況に応じた各種の通話制御機能を使用できます。 詳細は、「状況依存ボタンバー」(P 3-9)を参照してください。
8	スピーカ音量の調節	音量を調節するレバーを移動して、ヘッドセットのマイクロフォンやスピーカの音量を調節します。 詳細は、「スピーカ音量の調節」(P 3-13)を参照してください。

表 3-1 メインダイヤリング ウィンドウのコンポーネント (続き)

	コンポーネント	説明
9	ダイヤリングパッドボタン	このボタンをクリックすると、オンラインのダイヤリングパッドがトグル式に隠れたり表示されたりします。 詳細は、「発信」(P 3-16) を参照してください。
10	メッセージの再生ボタン (Play)	このアイコンをクリックして、現在選択中の回線で受信したボイスメールを再生します。
11	マイクロフォン音量調節	音量調節のレバーを移動して、ヘッドセットのマイクロフォンの入力音量を調節します。 詳細は、「マイクロフォン音量の調節」(P 3-15) を参照してください。
12	マイクロフォンミュートボタンまたはアイコン	このボタンをクリックして、マイクロフォンをミュート状態にすると、通話相手にユーザの言葉が聞こえないようになります。 詳細は、「マイクロフォン音量の調節」(P 3-15) を参照してください。
13	オンラインダイヤリングパッド	電話番号は、このボタンをクリックしてダイヤルします。 詳細は、「オンラインキーパッドからのダイヤリング」(P 3-18) を参照してください。
14	ハンドセットボタン	このボタンをクリックすると、ハンドセットの画像がトグル式に隠れたり表示されたりします。 詳細は、「アイコンバー」(P 3-7) を参照してください。

アイコンバー

表 3-2 では、Cisco IP SoftPhone のアイコンバー上に表示されるアイコンを説明します。

表 3-2 Cisco IP SoftPhone 各種アイコン

アイコン	説明
	<p>[音声メッセージ] アイコンです。ボイスメール メッセージが到着していると、赤に変化します。このアイコンから、ボイスメール ボックスを使用することもできます。</p> <p>詳細は、「ボイスメールの使用」(P 3-27)を参照してください。</p>
	<p>ダイヤリング ディレクトリ用のアイコンです。Cisco IP SoftPhone で使用可能なディレクトリを表示します。</p> <p>詳細は、「ダイヤリング ディレクトリの使用」(P 3-34)を参照してください。</p>
	<p>[設定] アイコンです。回線の選択、ダイヤリング ディレクトリの変更、コラボレーション設定の変更をする、[設定] ダイアログ ウィンドウを表示します。</p> <p>詳細は、「詳細設定」(P 3-40)を参照してください。</p>
	<p>[コラボレーション] アイコンです。バーチャル会議室を使用する、デスクトップコラボレーション セッションを開始します。</p> <p>詳細は、第4章「バーチャル会議室でのコラボレーション」を参照してください。</p>
	<p>[通話ログ] アイコンです。ユーザが発信や受信を行った記録、すなわち通話ログを表示します。</p> <p>詳細は、「通話ログを調べる」(P 3-39)を参照してください。</p>
	<p>[キーパッド] アイコンです。電話番号をダイヤルするオンラインキーパッドの表示と非表示を切り替えます。</p> <p>詳細は、「オンラインキーパッドからのダイヤリング」(P 3-18)を参照してください。</p>
	<p>[音量設定] アイコンです。スピーカ、マイクロフォン、呼び出し音、wav ファイルの音量を調節します。</p> <p>詳細は、「音量の調節」(P 3-12)を参照してください。</p>
	<p>[ヘルプ] アイコンです。Cisco IP SoftPhone のオンラインヘルプを表示します。</p>

状況依存ボタンバー

状況依存ボタンバーとそのボタンは、その時の通話の状態に応じて表示内容が変化します。

表 3-3 では、状況依存ボタンバー上の各種ボタンを説明します。

表 3-3 状況依存ボタンバー

ボタン	ボタン名	通話の状態	説明
	オフフックまたは応答 (Off Hook または Answer)	待機中または着信コール	発信または着信に応答するには、このボタンをクリックします。電話機の手話器を持ち上げるのと同じ機能です。
	通話終了 (End Call)	通話中	このボタンをクリックし、通話を終了または切断します。
	ダイヤル (Dial)	待機中	このボタンをクリックすると、ダイヤリングボックスに入力された電話番号がダイヤルされます。
	リダイヤル (Redial)	待機中 / オフフック	このボタンをクリックすると、直前に発信した番号をリダイヤルします。
	クリア (Clear)	待機中	このボタンをクリックすると、ダイヤリングボックスに入力した番号をクリアします。
	保留または保留解除 (Hold または Resume)	通話中または保留中	このボタンをクリックすると、コールを保留に、また保留中のコールに応答します。
	転送または直接転送 (Transfer または Send Call)	通話中または通話転送	このボタンをクリックすると、通話転送を開始するか、転送を完了させます。

表 3-3 状況依存ボタンバー（続き）

ボタン	ボタン名	通話の状態	説明
	打診または登録（Consult または Invite）	通話転送または電話会議	通話を転送するときに、このボタンをクリックすると、転送相手の確認を取ることができます。電話会議中にこのボタンをクリックすると、相手側を会議に参加させることができます。
	キャンセル（Cancel）	発信中	このボタンをクリックすると、発信通話、通話の転送、会議通話を接続が確立する前に取り消すことができます。
	会議（Conference）	通話中	このボタンをクリックすると、会議通話を開始できます。
	参加（Join）	会議通話中	このボタンをクリックすると、相手側を会議通話に参加させることができます。
	振分（Deflect）	着信通話中	このボタンをクリックすると、発信者と対話せずに、着信通話を別の番号に振り分けることができます。
	VM へ送信（Voice mail）	着信通話中	このボタンをクリックすると、発信者と対話せずに、着信コールを自動的にボイスメールに送信することができます。
	無視（Ignore）	着信通話中	このボタンをクリックすると、着信コールを無視することができます。通話は、発信者と対話せずに、自動的に切断されます。

[回線] ボタン

メインダイヤリング ウィンドウの [回線] ボタンは、Cisco IP SoftPhone で使用している回線の電話番号を表示します。Cisco IP Phone 装置が終端している回線には、電話アイコンが表示されます。スタンドアロン電話モードの場合で、コンピュータが終端している回線では、PC のアイコンが表示されます。ユーザに割り当てられている電話回線が複数ある場合は、[回線] ボタンを押して、発信に使用する回線を選択します。

選択した回線とは異なる回線に着信があると、その着信通話に自動的にフォーカスが移動します。この着信に応答するには、[応答] ボタンをクリックします。また、ハンドセットを持ち上げて、該当の [回線] ボタンを押せば、Cisco IP Phone で着信に応答することもできます。

表示の変更

Cisco IP SoftPhone の初回起動時は、メインダイヤリング ウィンドウはフルビュー モードで表示されます。フルビュー モードの場合は、一般の電話機の概観（ルック アンド フィールド）を備えたハンドセットの画像とダイヤリングパッドが表示されます。しかし、Cisco IP SoftPhone から発信をする場合は、ハンドセットやキーパッドを使用する必要はありません。Cisco IP SoftPhone のインターフェイスを上手に使用すれば、電話の画像を非表示にして、デスクトップ上に占めるメインダイヤリング ウィンドウの表示領域を少なくすることができます。

ハンドセットやキーパッドを非表示にするには、[ハンドセット] ボタンや [ダイヤリングパッド] ボタンをクリックします。メインダイヤリング ウィンドウは、図 3-3 に示すような外観になります。

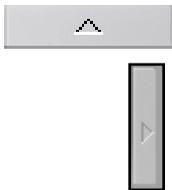
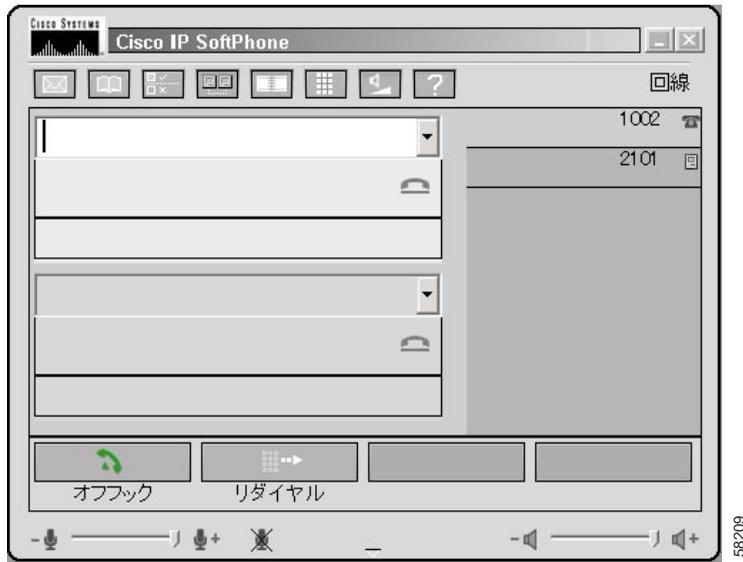


図 3-3 メインダイヤリング ウィンドウ (最小化した状態)



ヒント

Cisco IP SoftPhone は、バックグラウンドで最小化しておくことができます。通常の動作状態に戻すには、Windows のデスクトップ右下隅にある電話機のアイコンをクリックします。発信時や着信通話への応答時も、別のアプリケーションでの作業を続けることができます。

音量の調節

メインダイヤリング ウィンドウのスピーカとマイクロフォンの制御レバーでは、現在使用中のヘッドセット、ハンドセット、またはスピーカの音量を調節します。アイコンバーの [音量設定] アイコンからは、呼び出し音や .wav ファイルの音量などその他の調節ができます。



(注) 制御レバーで音量を調節できるのは、Cisco IP SoftPhone をスタンドアロンで使用している場合です。Cisco IP SoftPhone を IP Phone の制御に使用している場合は、Cisco IP Phone 自体の呼び出し、スピーカフォン、ハンドセットの調節レバーで音量を調節する必要があります。

関連トピック

- Cisco IP SoftPhone をスタンドアロン型の電話機として使用 (P 1-3)
- IP SoftPhone を Cisco IP Phone の制御に使用 (P 1-4)
- スピーカ音量の調節 (P 3-13)
- マイクロフォン音量の調節 (P 3-15)

スピーカ音量の調節

表示がフルモード ビューの場合は、スピーカ音量のレバーをマウスでドラッグして、希望する音量に設定できます。



表示がフルビュー モードでない場合は、アイコンバーの [音量設定] アイコンをクリックして、音量の調節をします。図 3-4 を参照してください。マウスで音量レバーを上下にドラッグして希望する音量に調節します。

スピーカ音をミュートにするには、スピーカ音量の下にある、[ミュート] チェックボックスをクリックします。

表 3-4 は、音量の調節の説明です。

図 3-4 【音量の調節】ダイアログウィンドウ

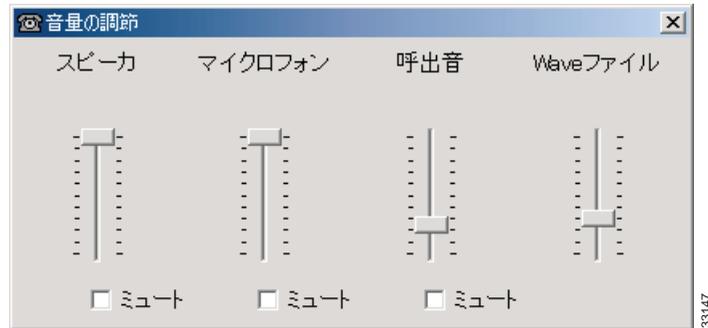


表 3-4 音量の調節

音量の調節	説明
スピーカ	コンピュータのスピーカ音量を調節します。このレバーの下にあるチェックボックスにチェックを付けると、コンピュータのスピーカはミュート（無音）状態になります。
マイクroフォン	コンピュータのマイクroフォンの入力音量を調節します。このレバーの下にあるチェックボックスにチェックを付けると、コンピュータのマイクroフォンがミュート（無入力）状態になります。
呼出音	再生される .wav ファイルの呼び出し音を調節します。このレバーの下にあるチェックボックスにチェックを付けると、呼び出し音は鳴りません。
Wave ファイル	Cisco IP SoftPhone から再生される .wav ファイルの音量を調節します。

マイクロフォン音量の調節

マイクロフォンの音量レバーをマウスで上下にドラッグして、コンピュータのマイクロフォンやヘッドセットのマイクロフォンを希望する音量に設定します。マイクロフォンをミュートにするには、マイクロフォン音量の下にある[ミュート]アイコンをクリックします。表 3-5 では、[ミュート]ボタンおよび[ミュート]アイコンを示しています。マイクロフォンがミュート状態になると、[ミュート]ボタンと[ミュート]アイコンが赤に変わります。ミュート状態を解除するには、[ミュート]ボタンか、[ミュート]アイコンをもう一度クリックします。

表 3-5 [ミュート]ボタンおよび[ミュート]アイコン

ボタン	表示場所
	表示がフルビュー モードの場合は、この[ミュート]ボタンは、[メッセージの再生]ボタンの下に表示されます。
	[ミュート]アイコンは、[ダイヤリングパッド]ボタンの左に表示されます。



マイクロフォンの音量も[音量設定]アイコンから調節できます。アイコンバーから[音量設定]アイコンをクリックすると、マイクロフォンの音量調節が可能になります。図 3-4 を参照してください。マウスでマイクロフォン音量調節のレバーを上下にドラッグして適切な音量に調節します。マイクロフォンの入力をミュートにするには、マイクロフォン音量の下にある[ミュート]チェックボックスをクリックします。

発信

手順

ステップ 1 メインダイヤリング ウィンドウで、使用する [回線] ボタンをクリックします。

回線のコールブロックが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの方法により、発信相手の番号をダイヤルします。

- キーボードを使用してダイヤリングボックスに番号を入力し、Enter キーを押します。
- 発信先の相手の電子メールアドレスか名前（両方でも一方でも可）を入力し、CTRL+K キーを押します。
 - この機能を使用するには、ディレクトリに発信先の名前が存在し、そこに電子メールアドレスと電話番号が含まれていることが必要です。
- マウスでオンラインキーパッドのキーをクリックし、[**ダイヤル**] ボタンをクリックします。

詳細は、「オンラインキーパッドからのダイヤリング」(P 3-18) を参照してください。
- インターネットのブラウザから、ダイヤリングボックスに番号をドラッグします。
- Cisco IP SoftPhone ディレクトリを開き、ダイヤル先の相手の名前をマウスでクリックし、[**ダイヤル**] ボタンをクリックします。

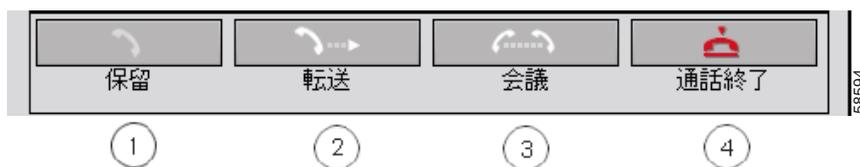
詳細は、「オンラインディレクトリからのダイヤル」(P 3-18) を参照してください。
- ダイヤリングボックスの隣にある矢印をクリックして、最近ダイヤルした番号から発信相手を選択し、[**ダイヤル**] ボタンをクリックします。

詳細は、「直前にダイヤルした番号へのリダイヤル」(P 3-19) を参照してください。
- Cisco IP SoftPhone ダイヤリング ディレクトリから、ダイヤリングボックスに番号をドラッグします。
- Windows の任意のプログラムから番号をコピーし、それをダイヤリングボックスにペーストし、[**ダイヤル**] ボタンをクリックします。

- デスクトップから、ダイヤリングボックスに v-card ファイルをドラッグします。

回線が接続されると、状況依存ボタンバーに、実行可能な各種の追加通話機能が表示されます。図 3-5 を参照してください。

図 3-5 通話オプション



1	保留 (Hold)	2	転送(Transfer)	3	会議 (Conference)	4	通話終了 (End Call)
---	-------------	---	----------------	---	----------------------	---	----------------------

関連トピック

- オンラインキーパッドからのダイヤリング (P 3-18)
- オンラインディレクトリからのダイヤル (P 3-18)
- 直前にダイヤルした番号へのリダイヤル (P 3-19)
- 通話の終了 (P 3-20)
- 通話の保留 (P 3-24)
- 通話の転送 (P 3-25)
- 音声会議の開始 (P 3-30)

オンラインキーボードからのダイヤリング

Cisco IP SoftPhone では、普通の電話機のキーボードと同じ外観と機能にするために、ダイヤル発信用のキーボードを備えています。操作は、ダイヤルしたい番号をマウスでクリックし、[**ダイヤル**] ボタンをクリックするだけです。オンラインキーボードは、オプションです。

手順

-
- ステップ 1 メインダイヤリング ウィンドウで、使用する [回線] ボタンをクリックします。
 - ステップ 2 [オフフック] ボタンをクリックするか、ハンドセットの画像をクリックします。
 -  ステップ 3 オンラインキーボードを開いていない場合は、アイコンバーから [キーボード] アイコンをクリックします。
 - ステップ 4 キーボードから電話番号をクリックします。

電話番号を入力すると、自動的に回線に接続されます。

オンラインディレクトリからのダイヤル

Cisco IP SoftPhone では、社内用と個人用のディレクトリを備えています。このディレクトリから相手の電話番号はもとより、名前を選択して発信することができます。

手順

-
-  ステップ 1 [**ディレクトリ**] アイコンをクリックします。

[アドレス帳] ウィンドウが開きます。

- ステップ 2 ドロップダウン リストボックスから、使用するディレクトリを選択します。

ディレクトリのリストが表示され、ディレクトリに登録されている人ごとに、その名前、電話番号、電子メールアドレスが表示されます。



ヒント

ディレクトリにリストされる人数を絞り込むには、[検索] ボックスに発信相手の名前の文字数を増やして入力し、[検索] をクリックします。検索ボックスに人名を入力して、[検索] をクリックすれば、特定の人を検索することもできます。

ステップ 3 次のいずれかの方法で、ディレクトリから発信します。

- 発信先の名前をクリックし、[**ダイヤル**] をクリックします。
- 発信先の名前を、ディレクトリからダイヤリング ボックスにドラッグします。

関連トピック

- ダイヤリング ディレクトリの使用 (P 3-34)

直前にダイヤルした番号へのリダイヤル



[**リダイヤル**] ボタンをクリックすると、直前にダイヤルした番号に自動的にリダイヤルされます。発信先ドロップダウン リストボックスから最近発信した番号を選択し、[**ダイヤル**] ボタンをクリックしてもリダイヤルができます。Cisco IP SoftPhone は、直前にダイヤルした番号を 15 件まで記録しています。

通話の終了



通話を終了するには、[**通話終了**] ボタンをクリックします。

Cisco IP Phone を Cisco IP SoftPhone と連動している場合は、IP Phone をオンフックにしても、通話を終了することができます。

着信への応答



着信に応答するには、[**応答**] ボタンをクリックします。

また、Cisco IP SoftPhone から Cisco IP Phone を制御している場合は、IP Phone のハンドセットを持ち上げるか、電話機がサポートしている手動の方法で、着信に応答することができます。

着信があると、状況依存ボタンバーには、着信に対応が可能な [応答]、[振分]、[VM へ送信]、および [無視] のボタンが表示されます。図 3-6 を参照してください。着信に自動で応答するように、Cisco IP SoftPhone を設定することもできます。詳細は、「着信への自動応答」(P 3-22) を参照してください。

通話中に別の着信を受ける場合は、[応答] ボタンをクリックして現在の通話を保留にしてから着信に応答します。応答しない場合でも、状況依存ボタンバーに表示される通話オプションのいずれかを使用して着信に対応することができます。

図 3-6 応答オプション



1	応答 (Answer)	2	振分 (Deflect)	3	VM へ送信 (Voice mail)	4	無視 (Ignore)
---	---------------	---	----------------	---	-----------------------	---	---------------

関連トピック

- 着信への自動応答 (P 3-22)
- 着信通話の振り分け (P 3-21)
- 着信コールのボイスメールへの送信 (P 3-21)
- 着信通話の無視 (P 3-22)

着信通話の振り分け



[振り分] ボタンをクリックすると、発信者と対話せずに、着信通話を別の番号に振り分けることができます。カーソルがダイヤリング ボックスに移動し、着信通話を振り分ける先の番号を入力できるようになります。番号を入力したら、Cisco IP SoftPhone の [直接転送] ボタンか、コンピュータのキーボードの **Enter** キーを押します。

ディレクトリからダイヤリング ボックスに、振り分け先の番号をドラッグして、着信通話を振り分けることもできます。

着信コールのボイスメールへの送信



状況依存ボタンバーから [VM へ送信] ボタンをクリックすると、発信者と対話せずに、着信通話をボイスメールに自動送信します。

Cisco IP SoftPhone の [設定] メニューでボイスメールの送信先を設定していない場合は、送信先を入力するよう要求されます。図 3-7 を参照してください。

図 3-7 着信通話をボイスメールへ振り分け



関連トピック

- ボイスメールの使用 (P 3-27)

着信通話の無視



状況依存ボタンバーから [無視] ボタンをクリックすると、発信者と対話せずに、自動的に着信通話をボイスメールに送信します。

着信への自動応答

Cisco IP SoftPhone が自動的に着信コールに応答し、発信者には .wav ファイルを再生するように設定するには、次の手順を実行します。

手順



ステップ 1 [設定] アイコンをクリックします。

[設定] ダイアログウィンドウが開きます。

ステップ 2 [通話制御 (C)] タブで、[自動的に応答] の隣にあるチェックボックスにチェックを入れ、呼び出し音が何回鳴ったら応答するか指定します。

デフォルトでは、応答までの呼び出し音の回数は 2 です。

ステップ 3 [自動応答を有効にする] の隣にあるチェックボックスにチェックを入れます。

ステップ 4 [応答ファイル] の選択ボックスで、応答メッセージとして再生する .wav ファイルのパス名を入力します。

再生できる .wav ファイルの形式は、16 ビット、8KHz PCM(モノラル)とします。

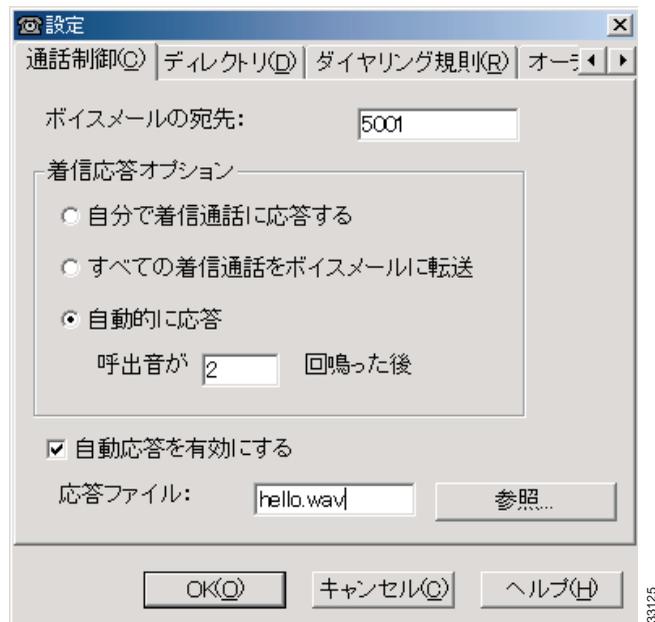


ヒント

.wav ファイルで録音するには、Windows のサウンドレコーダーを使用します。フォーマットが正しいか確認する場合にも使用します。Windows のサウンドレコーダーでは、.wav ファイルのフォーマットに変換することもできます。詳細は、サウンドレコーダーのオンラインヘルプを参照してください。

ステップ 5 [OK (O)] をクリックして、設定の保存を行い、[設定] ダイアログウィンドウを閉じます。

図 3-8 自動応答メッセージの設定



関連トピック

- 自動応答モードの使用 (P 3-32)

通話の保留



通話中の回線を保留にするには、状況依存ボタンバーから [**保留**] ボタンをクリックするか、Cisco IP Phone を制御している場合は、IP Phone 本体の [**保留**] ボタンをクリックします。

通話の保留中は、発信者に関する情報と保留時間がコールブロックに表示されません。

保留中の通話を再開するには、状況依存ボタンバーから [**保留解除**] ボタンか、Cisco IP Phone の [**保留解除**] キーを押します。

通話中の回線を保留にして、着信に応答するには、[**応答**] ボタンをクリックします。

通話の転送

通話を転送すると、現在の通話を内線や外線に戻すことができます。

Cisco IP SoftPhone には、次の2種類の転送方法があります。

- 確認して転送する方法 (P 3-25)
- 直接転送をする (P 3-25)

確認して転送する方法

打診転送とも呼ばれるこの確認転送では、転送する前に、転送する相手に電話で確認をすることができます。

手順

-
- ステップ 1 通話中に、状況依存ボタンバーから [**転送**] ボタンをクリックするか、Cisco IP Phone を制御している場合は、IP Phone 本体の **Transfer** ソフトキーをクリックします。
 - ステップ 2 ダイヤリング ボックスに、転送先を入力します。
 - ステップ 3 [**打診**] ボタンを押し、転送相手に転送することを伝えます。
 - ステップ 4 [**直接転送**] ボタンを押します。

転送が完了すると、元の通話と確認通話の両方が画面から消えます。

直接転送をする

打診なし転送とも呼ばれるこの直接転送では、発信元からのコールを転送相手に何も伝えずに直接、転送します。

手順

ステップ 1 通話中に、状況依存ボタンバーから [**転送**] ボタンをクリックするか、Cisco IP Phone を制御している場合は、IP Phone 本体の **Transfer** ソフトキーをクリックします。

[**転送ダイヤリング**] ボックスが開きます。

ステップ 2 [**転送ダイヤリング**] ボックスに、転送先を入力します。

ステップ 3 キーボードの **Enter** キーを押すか、[**直接転送**] ボタンをクリックすると、転送が完了します。

転送が完了すると、元の通話と確認通話の両方が画面から消えます。

ボイスメールの使用

以下のセクションでは、Cisco IP SoftPhone の 各種ボイスメール機能を使用する方法について説明します。

- ユーザのボイスメールボックスの設定 (P 3-27)
- ボイスメールの確認 (P 3-28)
- 着信通話をすべてボイスメールへ転送 (P 3-29)

ユーザのボイスメールボックスの設定

Cisco IP SoftPhone でボイスメール機能を利用する前には、ユーザが使用するボイスメールボックスの番号を設定する必要があります。

手順



ステップ 1 [設定] アイコンをクリックします。

[通話制御] タブが開きます。

ステップ 2 [ボイスメールの宛先] ボックスに、ユーザが使用するボイスメールボックスの番号を入力します。

ステップ 3 [OK] をクリックします。

関連トピック

- ボイスメールの統合 (P 1-11)
- ボイスメールの確認 (P 3-28)
- 着信通話をすべてボイスメールへ転送 (P 3-29)

ボイスメールの確認

ボイスメールメッセージがボックスに存在するときは、メッセージの確認を行うまで、アイコンバーの[音声メッセージ]アイコンが赤になります。メッセージを確認する手順は、次のとおりです。

前提条件

- ユーザのメールボックスのアクセス番号を設定します。「ユーザのボイスメールボックスの設定」(P 3-27)を参照してください。

手順



ステップ 1 [音声メッセージ]アイコンをクリックします。

ポップアップ ダイアログ ボックスが表示され、ボイスメールが到着している回線が表示されます。

ステップ 2 ボイスメールを確認する回線を選択します。

Cisco IP SoftPhone が、自動的にユーザのボイスメールボックスにダイヤルします。

ステップ 3 音声による指示に従って、ボイスメールの確認を行います。



ヒント

選択した回線にボイスメールが到着しているかどうかを手早く確認するには、メインダイヤリングウィンドウの[メッセージの再生]ボタンをクリックします。

関連トピック

- ボイスメールの統合 (P 1-11)
- ユーザのボイスメールボックスの設定 (P 3-27)

着信通話をすべてボイスメールへ転送

すべての着信通話を自動的にボイスメールに転送する手順は、次のとおりです。

前提条件

- ユーザのメールボックスのアクセス番号を設定します。「ユーザのボイスメールボックスの設定」(P 3-27)を参照してください。

手順



ステップ 1 [設定] アイコンをクリックします。

[通話制御] タブが開きます。

ステップ 2 [すべての着信通話をボイスメールに転送] チェックボックスにチェックを付け、使用可能にします。

ステップ 3 [OK] をクリックします。

着信の自動転送を解除する手順は、次のとおりです。

ステップ 1 [通話制御(C)] タブから [すべての着信通話をボイスメールに転送] チェックボックスからチェックを外します。

ステップ 2 [OK] をクリックします。

関連トピック

- ボイスメールの統合 (P 1-11)
- ユーザのボイスメールボックスの設定 (P 3-27)
- ボイスメールの確認 (P 3-28)

音声会議の開始



Cisco IP SoftPhone で音声会議を開催する準備をするには、状況依存ボタナバーから [会議] ボタンをクリックするか、ディレクトリから名前を現在の通話のコールブロックにドラッグします。音声会議へ参加することを承諾しているユーザの名前が、Cisco IP SoftPhone のロースタ名簿に表示されます。

手順

-
- ステップ 1 音声会議に参加を予定している最初の人に発信します。
- ステップ 2 接続が確立したら、状況依存ボタナバーから [会議] ボタンをクリックします。
- ステップ 3 ダイヤリングボックスに、2 番目の参加予定者の番号を入力します。



ヒント

音声会議の発信先は、個人用と社内用の両方のダイヤリング ディレクトリからダイヤリングボックスにドラッグすることができます。

- ステップ 4 [登録] ボタンをクリックするか、Enter キーを押します。
- ステップ 5 3 者による音声会議を設定するには、ユーザ自身、第 1 ユーザ、第 2 ユーザと、順に [参加] ボタンをクリックします。

音声会議に参加者をさらに追加するには、ステップ 3 からステップ 5 を必要に応じて実行します。音声会議には、最大で 6 人までが参加できます。

関連トピック

- 音声会議 (P 1-6)
- パーチャル会議室とのデスクトップ コラボレーション (P 1-7)
- 会議に参加者を追加 (P 3-31)
- 会議から退出 (P 3-31)
- ロースタ名簿の使用 (P 4-3)

会議に参加者を追加

音声会議へは参加者をいつでも追加することができます。コラボレーションセッション中でも追加は可能です。会議に途中から参加した人は、音声とデータの両方で会議に参加することになります。コラボレーションの最新データが、途中参加者の PC 画面上に表示されます。音声会議には、6 人までが参加できます。

手順

ステップ 1 音声会議を開始します。

「音声会議の開始」(P 3-30) を参照してください。

ステップ 2 ダイヤリングボックスに、会議通話に追加する人の番号を入力します。



音声会議の発信先は、個人用と社内用の両方のダイヤリング ディレクトリからダイヤリングボックスにドラッグすることができます。

ステップ 3 [登録] ボタンをクリックするか、Enter キーを押します。

ステップ 4 [参加] ボタンをクリックして、この参加者を会議に追加します。

音声会議中は、各参加者の ID がメインダイヤリングウィンドウに表示されます。音声会議には、6 人までが参加できます。

関連トピック

- 会議から退出 (P 3-31)

会議から退出



状況依存ボタンバーから [通話終了] ボタンをクリックすれば、音声会議からいつでも退出することができます。音声会議から退出すると、Cisco IP SoftPhone はロースタ名簿からユーザの名前を削除します。

Cisco IP SoftPhone で .wav ファイルの再生

Cisco IP SoftPhone をオンラインの IP 電話として使用すると、事前に録音した音声ファイル (.wav) を、カスタマイズされた応答メッセージや通話中のメッセージとして再生することができます。Cisco IP SoftPhone は、16 ビット、8KHz PCM (モノラル)形式の .wav ファイルに対応しています。Microsoft Windows のサウンドレコーダーを使用し、この形式の .wav ファイルを作成したり、他の .wav ファイルから変換したりできます。

以下のセクションでは、Cisco IP SoftPhone での .wav ファイルの再生について説明します。

- 自動応答モードの使用 (P 3-32)
- 発信者に .wav ファイルを再生 (P 3-33)
- 通話中の .wav ファイルの停止 (P 3-33)

自動応答モードの使用

着信の応答時に、事前に指定してある .wav ファイルを発信者に対して自動で再生するように、Cisco IP SoftPhone を設定することができます。



ステップ 1 [設定] アイコンをクリックします。

[通話制御 (C)] タブが開きます。

ステップ 2 [自動応答を有効にする] チェックボックスにマークを付けます。

ステップ 3 [応答ファイル] 選択ボックスで、応答メッセージとして再生する .wav ファイルのパス名を入力します。または、[参照...] をクリックして、ファイルを選択します。

再生できる .wav ファイルの形式は、16 ビット、8KHz PCM(モノラル)とします。

ステップ 4 [OK] をクリックします。

関連トピック

- 着信への自動応答 (P 3-22)

発信者に .wav ファイルを再生

Cisco IP SoftPhone をスタンドアロンのアプリケーションとして使用している場合は、通話中にいつでも、.wav ファイルを発信者に再生することができます。.wav ファイルは、ユーザの PC にも同時に再生されます。一度に再生できる .wav ファイルは 1 つだけです。

手順

ステップ 1 メインダイヤリング ウィンドウで、マウスを右クリックします。

ステップ 2 フローティングメニューから [**ファイルの再生 ...**] を選択してください。

ステップ 3 ファイル名ボックスに、再生する .wav ファイルのパスと名前を入力します。

再生する .wav ファイルの形式は、16 ビット、8KHz PCM (モノラル) とします。

ステップ 4 [**開く**] をクリックします。

指定の .wav ファイルが発信者に再生されるようになります。

関連トピック

- 音量の調節 (P 3-12)
- 通話中の .wav ファイルの停止 (P 3-33)

通話中の .wav ファイルの停止

発信者に対して再生中の .wav ファイルを停止するには、Cisco IP SoftPhone のフローティングメニューから、[**ファイルの再生中止**] をクリックします。

ダイヤリング ディレクトリの使用

Cisco IP SoftPhone は、Cisco CallManager に組み込まれているディレクトリサービスと統合されています。このディレクトリの名前は、システム管理者が Cisco IP SoftPhone のネットワークを設定する時に指定しています。

また、Cisco IP SoftPhone では、社内外のディレクトリに未登録の名前を登録することができる個人用ディレクトリを備えています。Cisco IP SoftPhone は、最初に個人用ディレクトリから参加者を検索し、次に公開用ディレクトリを検索します。また、各種の電子メールに付属している個人用アドレス帳をも統合することが可能です。

以下のセクションでは、ディレクトリの設定と使用法について説明します。

- オンラインディレクトリからのダイヤル (P 3-18)
- ディレクトリ エントリの追加 (P 3-34)
- ディレクトリ エントリの削除 (P 3-37)
- ディレクトリ エントリの編集 (P 3-38)
- ディレクトリ エントリの検索 (P 3-38)

ディレクトリ エントリの追加

個人用ディレクトリにエントリを追加するには、現在の通話をディレクトリにドラッグするか、[ディレクトリエントリの追加 / 編集] ダイアログウィンドウからアドレスを追加します。



ヒント

他のユーザとコラボレーションをするには、ユーザ自身用のエントリを個人用ディレクトリに追加する必要があります。ユーザのコンピュータのホスト名または IP アドレスを「割り当てる PC」フィールドで、必ず確認してください。

手順



ステップ 1 [ディレクトリ]アイコンをクリックします。

ステップ 2 [エントリの追加]ボタンをクリックし、[ディレクトリエントリの追加 / 編集]ダイアログウィンドウを開きます。

ステップ 3 以下のいずれかの方法で、エントリボックスにアドレス情報を入力します。

- キーボードを使用して、アドレス情報を入力します。
図 3-9 に、[ディレクトリエントリの追加 / 編集]ダイアログウィンドウを示します。
- ユーザの Web ブラウザから、v-card を [ディレクトリエントリの追加 / 編集]ダイアログウィンドウにドラッグします。Cisco IP SoftPhone に、この番号をディレクトリに追加するかどうかプロンプトが表示されます。
- 公開用ディレクトリからユーザの個人用ディレクトリに、追加する項目をドラッグします。

ステップ 4 追加を完了したら、[OK]をクリックします。

入力した名前、電話番号、電子メールアドレスが「ディレクトリ」ダイアログウィンドウに表示されます。この相手にダイヤルするには、該当するディレクトリエントリを選択して、[ダイヤル]ボタンをクリックするだけです。

図 3-9 ディレクトリ エントリへの追加と削除

ディレクトリエントリの追加/編集

名: 由美子

ミドルネーム:

姓: 長岡

電話: 2101

FAX:

ポケットベル:

携帯電話:

電子メールアドレス: ynagaoka

割り当てるPC: 64.104.61.20

OK(O) キャンセル(C) ヘルプ(H)

58557

-
- 1 個人の PC の IP アドレスまたはホスト名。コラボレートする相手の情報を必ず指定する必要があります。
-

関連トピック

- オンラインディレクトリからのダイヤル (P 3-18)
- ダイヤリング ディレクトリの使用 (P 3-34)
- ディレクトリ エントリの削除 (P 3-37)
- ディレクトリ エントリの編集 (P 3-38)

ディレクトリ エントリの削除

ユーザの個人用ディレクトリから名前を削除するには、次の手順を実行します。



(注) 公開用ディレクトリから氏名を削除することはできません。

手順



ステップ 1 [**ディレクトリ**] アイコンをクリックします。

ステップ 2 ドロップダウン リストボックスから、個人用ディレクトリの名前を選択します。

ステップ 3 削除するエントリを選択します。

ステップ 4 [**エントリの削除**] ボタンをクリックしてください。

確認ウィンドウが表示され、この相手をディレクトリから削除するか確認が求められます。

ステップ 5 [**はい**] をクリックして、削除の確認をします。

[**アドレス帳**] ウィンドウから、指定したエントリが削除されます。

関連トピック

- オンラインディレクトリからのダイヤル (P 3-18)
- ダイヤリングディレクトリの使用 (P 3-34)
- ディレクトリ エントリの追加 (P 3-34)
- ディレクトリ エントリの編集 (P 3-38)

ディレクトリ エントリの編集

ユーザの個人用ディレクトリのエントリを編集するには、次の手順を実行します。

手順



ステップ 1 [ディレクトリ] アイコンをクリックします。

ステップ 2 ドロップダウン リストボックスから、個人用ディレクトリの名前を選択します。

ステップ 3 編集するディレクトリ エントリをダブルクリックするか、マウスで選択するかして、次に[エントリの編集] ボタンをクリックします。

[ディレクトリエントリの追加 / 削除] ダイアログウィンドウが表示されます。

ステップ 4 アドレス情報を、必要に応じて変更します。

ステップ 5 [OK (O)] クリックすると、変更が有効になります。

関連トピック

- ディレクトリ エントリの追加 (P 3-34)
- ディレクトリ エントリの削除 (P 3-37)
- ダイヤリング ディレクトリの使用 (P 3-34)
- オンラインディレクトリからのダイヤル (P 3-18)

ディレクトリ エントリの検索

フィルタボックスを使用して、ディレクトリに表示される人数を絞り込みます。発信する相手の名前の文字数を増やして入力して[検索] ボタンをクリックします。

通話ログを調べる



アイコンバーの[通話ログ]アイコンをクリックして、ユーザが発信や受信した通話の記録を調べることができます。図 3-10 を参照してください。

表 3-6 では、[通話ログ]に保存する情報を説明しています。

図 3-10 [通話ログ] ダイアログウィンドウ

回線	開始時刻	方向	通話相手	終了時刻
2101	07/19 21:10	発信		07/19 21:10
2101	07/19 21:20	着信	2104	07/19 21:20
2101	07/19 21:21	着信	2104	07/19 21:22
2101	07/19 21:25	着信	2104	07/19 21:25
1002	07/19 21:28	発信		07/19 21:29
1002	07/19 21:29	発信	1001	07/19 21:29
2106	07/19 21:29	着信	1001	07/19 21:29
2106	07/19 21:29	発信		07/19 21:29
2106	07/19 21:30	発信		07/19 21:30

表 3-6 通話ログ データ

	項目名	説明
1	回線	通話が行われた回線です。
2	開始時刻	通話が接続された日付と時間です。
3	方向	通話の発信、着信の別を示します。
4	通話相手	接続相手の電話番号です。
5	終了時刻	通話が終了した時刻です。

詳細設定

次の手順を実行するには、[設定] ウィンドウから [詳細設定 (V)] タブを使用してください。

- リモート TSP の場合に限り、Cisco CallManager サーバの名前を設定する。
- コントロールする回線を選択する。
- コラボレーションの設定を変更する。
- 言語の設定を変更する。

手順



ステップ 1 [設定] アイコンをクリックします。

ステップ 2 [詳細設定 (V)] タブを選択します。

図 3-11 を参照してください。

ステップ 3 表 3-7 の説明に従って、設定を行います。

ステップ 4 [OK (O)] をクリックします。



(注) Windows NT 4.0 を使用し、ネットワークのダイヤルアップ設定をすでに行っている場合は、PC を再起動して、TAPI サーバを有効にしてください。

図 3-11 [詳細設定] タブ

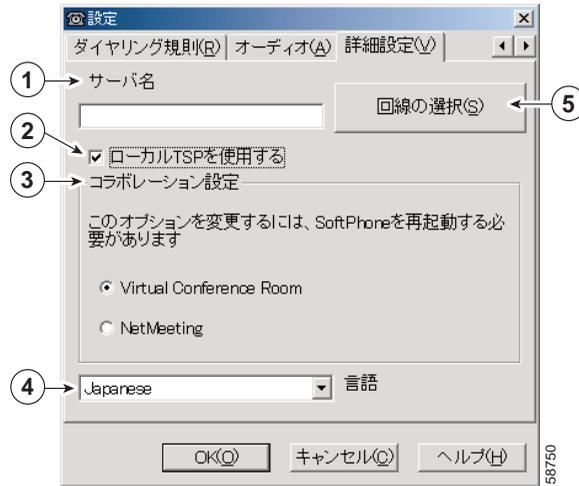


表 3-7 詳細設定

設定	説明
1 サーバ名	リモート TSP を使用して Cisco CallManager に接続している場合は、ローカル TSP チェックボックスからチェックを外し、ここで使用するリモート TSP サーバのホスト名を入力します。 ¹
2 ローカル TSP を使用する チェックボックス	ローカル TSP を使用して Cisco CallManager と通信する場合は、このチェックボックスにチェックを入れます（デフォルトでチェックあり）。リモート TSP を使用する場合は、このチェックボックスからチェックを外します。
3 コラボレーション設定	Cisco IP SoftPhone のバーチャル会議室機能を使用するには、[Virtual Conference Room] オプションを有効にします。Microsoft NetMeeting のビデオ コラボレーション機能を使用するには、NetMeeting を有効にします。前述の各種設定を有効にするには、ユーザのコンピュータを再起動する必要があります。
4 言語	Cisco IP SoftPhone で使用する言語を選択します。
5 回線の選択	[回線の選択] をクリックします。制御したい IP Phone 回線を選択します（複数選択も可）。 詳細は、「使用する回線の選択」(P 3-2) を参照してください。

1. リモート TSP を使用した Cisco CallManager との通信設定は、Cisco IP SoftPhone のサポートには含まれていません。



バーチャル会議室でのコラボレーション

この章では、Cisco IP SoftPhone のバーチャル会議室を利用したデスクトップコラボレーション機能について説明します。

- コラボレーション用チェックリスト (P 4-1)
- ロースタ名簿の使用 (P 4-3)
- アプリケーション共有ウィンドウの使用 (P 4-5)
- ホワイトボードセッションの開始 (P 4-12)
- チャットメッセージの送信 (P 4-15)
- ビデオ コラボレーション セッションの準備 (P 4-17)

コラボレーション用チェックリスト

コラボレーション セッションを開始する前に、表 4-1 で示す各種設定を確認してください。



(注)

Cisco IP SoftPhone のコラボレーション機能は、NetMeeting の設定がされていないと、正しく動作しません。NetMeeting 用の各種設定の方法については、「バーチャル会議に関する問題の診断」(P A-22) を参照してください。

表 4-1 コラボレーション用チェックリスト

設定	説明
コラボレーション	[設定] ウィンドウを開き、[詳細設定] タブの [コラボレーション設定] で [Virtual Conference Room] が選択されていることを確認します。
割り当てる PC	個人用ディレクトリか社内用ディレクトリを開き、ユーザ自身を含むコラボレーション セッションの参加者全員の [割り当てる PC] エントリで、ホスト名(または IP アドレス) が正しく設定されていることを確認します。 [割り当てる PC] が参加者用に指定されていないか、誤りがある場合は、ユーザが個人用ディレクトリ エントリを追加(または更新)するか、システム管理者に社内用ディレクトリの更新を依頼する必要があります。コラボレーション セッションが設定されている場合は、Cisco IP SoftPhone は、最初にユーザの個人用ディレクトリから参加者を検索します。参加者のエントリが見つからない場合は、一般用ディレクトリを検索します。
Microsoft NetMeeting	<p>Cisco IP SoftPhone をインストールした後に、それまでインストールされていた NetMeeting (バージョン 3.01 以降) をアップグレードする場合は、必ずオーディオ設定とユーザ設定を NetMeeting 用に調整してください。</p> <p>Cisco IP SoftPhone をインストールすると、NetMeeting バージョン 3.01 は、自動的にインストールされます。従って、NetMeeting 用のオーディオ設定とユーザ設定は、通常は、Cisco IP SoftPhone の初回に立ち上げた時に行われます。</p>

ロースタ名簿の使用



[コラボレーション] アイコンを通話中や音声会議中にクリックすると、Cisco IP SoftPhone はコンピュータの画面に[ロースタ] ウィンドウを表示します。このロースタ名簿には、通話に参加している参加者のリストが表示されます。参加者が会議に参加したり退出したりすると、このリストは更新されます。ロースタ名簿には、ユーザがアイコンをクリックすると、ホワイトボード、アプリケーション、資料などを共有できます。他の参加者とチャットを開始することもできます。図 4-1 を参照してください。

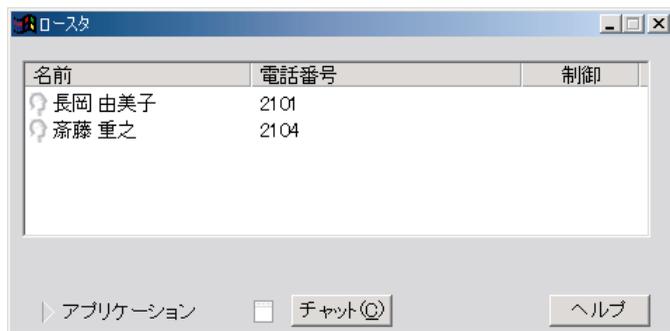
参加者がコラボレーションに参加できる場合は、ロースタ名簿内の参加者名の隣にあるアイコンが緑で表示されます。



ヒント

[ロースタ] ウィンドウの参加者の名前が緑で点灯していない場合は、コラボレーションチェックリストを調べて、すべてのコラボレーション条件を満たしているか確認します。詳細は、「コラボレーション用チェックリスト」(P 4-1) を参照してください。

図 4-1 [ロースタ] ウィンドウ



関連トピック

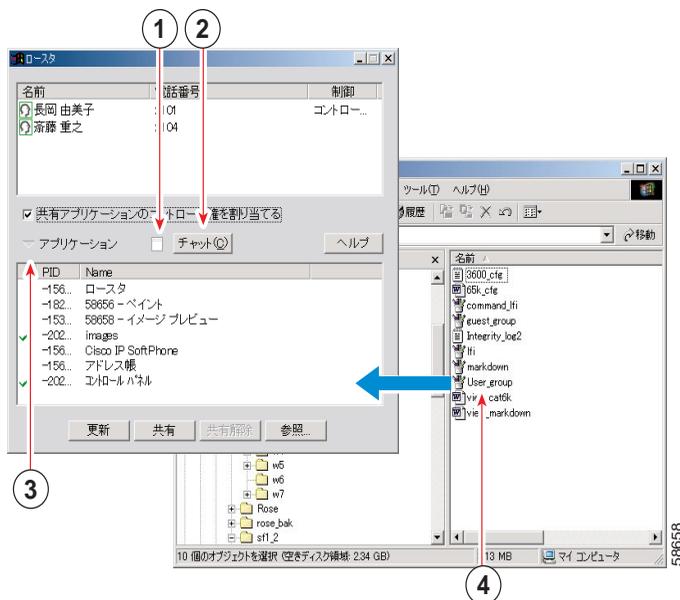
- バーチャル会議室とのデスクトップ コラボレーション (P 1-7)
- コラボレーション用チェックリスト (P 4-1)
- アプリケーション共有ウィンドウの使用 (P 4-5)
- 資料の共有セッションの開始 (P 4-7)
- ホワイトボードセッションの開始 (P 4-12)
- チャットメッセージの送信 (P 4-15)

アプリケーション共有ウィンドウの使用

[ロースタ]ウィンドウの[アプリケーション]ボタンには、ユーザが現在自分のマシンで開いているアプリケーションとファイルのリストが表示されています。このボタンをクリックすると、データ コラボレーション セッションを開始したり、[アプリケーション]ウィンドウを折りたたんだり、展開したりできます。

図 4-2 では、[アプリケーション共有]ウィンドウの使い方を示しています。表 4-2 では、ボタンバーの[アプリケーション共有]ウィンドウの各制御について説明します。

図 4-2 [アプリケーション共有]ウィンドウ



1	ここをクリックして、ホワイトボードセッションを開始します。
2	ここをクリックして、チャットセッションを開始します。
3	ここをクリックして、コラボレーションセッションを開始します。 [アプリケーション]ウィンドウを折りたたんだり、展開したりします。
4	任意のファイルを[ロースタ]ウィンドウのアプリケーションリストにドラッグして、会議通話中の他の参加者とこのファイル共有します。

表 4-2 アプリケーション共有の各種制御

制御	説明
更新ボタン (Refresh)	[ロースタ]ウィンドウに表示されたアプリケーションのリストを更新します。
共有ボタン (Share)	[ロースタ]ウィンドウで選択されたアプリケーションやファイルは、参加者全員に共有されます。
共有解除ボタン (Unshare)	[ロースタ]ウィンドウで選択されたアプリケーションやファイルの共有を停止し、各参加者のコンピュータの画面から、共有していたアプリケーションやファイルの画像を消去します。
参照 ... ボタン (Browse)	選択したファイルを開き、それを [ロースタ]ウィンドウのアプリケーションリストの先頭に追加し、さらにそのファイルに関連するアプリケーションを共有します。
[共有アプリケーションのコントロール権を割り当てる] チェックボックス	共有アプリケーションでのコントロール権の割り当てと、削除を行います。このオプションは、通話中の参加者のうち、最低2名がコラボレーションを行う場合のみ、選択可能です。

関連トピック

- コラボレーション用チェックリスト (P 4-1)
- ロースタ名簿の使用 (P 4-3)
- 資料の共有セッションの開始 (P 4-7)
- 資料のコントロール権の移行 (P 4-9)
- 資料のコントロール権の要求 (P 4-11)
- 資料の共有セッションの終了 (P 4-11)

資料の共有セッションの開始

資料やアプリケーションの共有セッションを開始すると、Cisco IP SoftPhone は各参加者のデスクトップ上に新しいウィンドウを開き、共有として選択したファイルを表示します。共有ファイルのコントロール権は、最初は共有を指定した参加者がもちますが、ファイルに関連付けられているアプリケーションを参加者のコンピュータにインストールしていない場合も、その参加者にコントロール権を転送し、それを受け取った人がファイルに変更を加えることも可能です。

複数のプログラムを同時に共有し、しかも複数の参加者がこれらのプログラムを同時に使用することができます。また、ホワイトボードや資料も同時に共有できます。



(注) アプリケーションや資料を共有するには、参加者の全員が [割り当てた PC] アドレスを正しく設定していることと、各自の一般用または個人用のディレクトリ エントリに登録されていることが必要です。詳細は、「ディレクトリ エントリの追加」(P 3-34) を参照してください。

手順

ステップ 1 通話中や音声会議中に、[ロースタ] ウィンドウの [**アプリケーション**] ボタンをクリックします。

ユーザのコンピュータで現在使用可能なアプリケーションのリストが表示されます。

ステップ 2 [**参照 ...**] ボタンをクリックして、共有するファイルを選択するか、Windows の Explorer を開いて、ファイルを [ロースタ] ウィンドウのアプリケーションリストにドラッグします。

Cisco IP SoftPhone は選択されたファイルとそれに関連付けられているアプリケーションをデスクトップで開き、[ロースタ] ウィンドウの使用可能アプリケーションリストに追加します。

ステップ 3 [ロースタ]ウィンドウのアプリケーションリストからファイルを選択し、**[共有]**をクリックします。

各参加者のコンピュータの画面に新しいウィンドウが開き、選択したファイルが表示されます。ファイルに関連付けられているアプリケーションがインストールされていなくても、ファイルは表示されます。

共有ファイルのコントロール権は、最初は共有を指定した参加者が持ちますが、コントロール権の転送はいつでも可能です。詳細は、「資料のコントロール権の移行」(P 4-9)を参照してください。



ヒント

アプリケーションや資料は、Windows の Explorer から [ロースタ] ウィンドウにドラッグしても、共有することができます。



注意

Windows の Explorer ウィンドウから、マイコンピュータ、コントロールパネル、その他ユーザのコンピュータ上のフォルダを共有する場合は、その時点で開いているすべての Explorer ウィンドウが共有されます。また、一度このような Explorer ウィンドウを共有すると、会議への参加中に起動したすべてのプログラムが、他の参加者と自動的に共有されてしまいます。

関連トピック

- パーチャル会議室とのデスクトップ コラボレーション (P 1-7)
- アプリケーションと資料の共有 (P 1-9)
- コラボレーション用チェックリスト (P 4-1)
- アプリケーション共有ウィンドウの使用 (P 4-5)
- 資料のコントロール権の移行 (P 4-9)
- 資料のコントロール権の要求 (P 4-11)
- 資料の共有セッションの終了 (P 4-11)

資料のコントロール権の移行

資料やアプリケーションの共有セッションでは、アプリケーションや資料の共有化を指定した参加者がそのファイルのコントロール権を持ちます。

「Top Provider」と呼ばれるこの人は、セッション中の他の参加者にそのコントロール権を移すことができます。ただし、共有プログラムのコントロール権を持つ参加者は、一度に1人までです。Top Provider が他の参加者に共有プログラムでの作業を許可すると、共有プログラムウィンドウのタイトルバーに、**[制御可能]**という文字が表示されます。参加者は Top Provider に対し、ファイルのコントロール要求を送信することができます。マウスポインタにイニシャル付きのボックスがある場合は、自分以外の参加者がプログラムのコントロール権を持っています。



(注) 共有ファイルのコントロール権を移行したり、取り消したりできるのは、本人が Top Provider のときに限られます。

手順

ステップ 1 資料の共有セッションを開始します。

「資料の共有セッションの開始」(P 4-7) を参照してください。

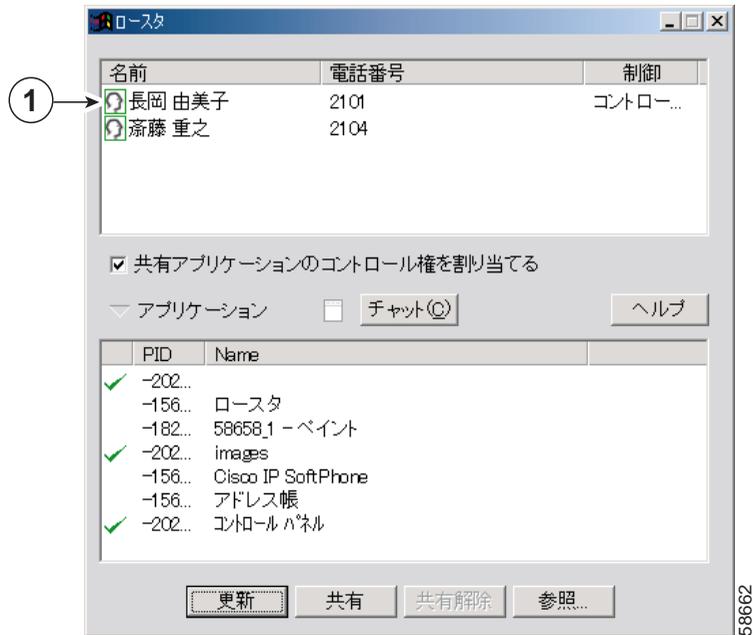
ステップ 2 [ロースタ] ウィンドウで、資料のコントロール権を移行したい参加者をクリックします。

ステップ 3 [共有アプリケーションのコントロール権を割り当てる] の隣にあるチェックボックスをクリックします。

[ロースタ] ウィンドウの参加者の名前の隣に、[コントロール権] と表示されず、この人にファイルのコントロール権が移ったこととなります。図 4-3 を参照してください。各参加者のコンピュータの画面上の共有プログラムウィンドウのタイトルバーに、**[制御可能]**という文字が表示されます。

共有アプリケーションやファイルのコントロール権を取り戻すには、共有中のアプリケーション上でダブルクリックします。

図 4-3 資料のコントロール権の移行



1 本人がファイルのコントロール権を持っている状況。

関連トピック

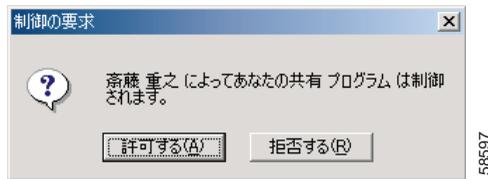
- 資料のコントロール権の要求 (P 4-11)
- 資料の共有セッションの終了 (P 4-11)

資料のコントロール権の要求

資料の共有セッションに参加している場合は、資料共有アプリケーションウィンドウでダブルクリックするか、**制御 > 制御の要求**を選択すれば、Top Provider に資料のコントロール権を要求することができます。Cisco IP SoftPhone が Top Provider にメッセージを送信し、その要求に応じるか問い合わせます。図 4-4 を参照してください。

コントロール権の要求を送信された Top Provider が、10 秒以内に応答しない場合は、要求は拒否されたものと見なされます。

図 4-4 資料のコントロール権の要求



資料の共有セッションの終了

資料の共有セッションを終了するには、[ロースタ] ウィンドウで資料を選択して、[共有解除] をクリックします。そのファイルを共有している資料ウィンドウが、各参加者のコンピュータの画面から資料が消去されます。資料の共有セッションを終了できるのは、Top Provider に限られます。

ホワイトボードセッションの開始

ホワイトボードセッションを開始すると、各参加者のコンピュータの画面にホワイトボードが表示されます。ホワイトボードセッション中は、参加者全員がホワイトボードツールを使用して、組み込みの図形やフリーハンドの図形を共有画面に描くことができます。内容を保存して終了し、それからホワイトボードを消去することができます（保存しないことも可能です）。ホワイトボードを開いても、ユーザのコンピュータの画面から消えるだけで、ホワイトボードセッションの他の参加者は、引き続きホワイトボードを見ながらセッションに参加できます。ホワイトボードセッションが継続していれば、[ホワイトボード]ボタンをクリックすると、ホワイトボードセッションの退出後もいつでも、このセッションに復帰できます。

一度に開けるホワイトボードセッションは1つだけです。ただし、ホワイトボードセッションと資料の共有セッションは同時に開くことができます。



(注)

ホワイトボード機能を使用するには、参加者全員が[割り当てる PC] エントリに、ユーザの公開用（または個人用）のディレクトリに登録されている必要があります。詳細は、「ディレクトリ エントリの追加」(P 3-34) を参照してください。

手順



ステップ 1 通話中または音声会議中に、[コラボレーション] アイコンをクリックします。

ロースタ名簿に、通話中の参加者全員が表示されます。



ステップ 2 [ロースタ] ウィンドウの [ホワイトボード] アイコンをクリックします。

各参加者のコンピュータの画面に、白紙のホワイトボードが表示されます。

ステップ 3 意見や考えを [ホワイトボード] ウィンドウに発表するには、ホワイトボードツールを使用します。会議の各参加者は、発表者のデスクトップにアクセスしなくても、各自の PC 上で発表者のアイデアを図解でみるすることができます。

ホワイトボードの詳しい使用方は、[ホワイトボード] ウィンドウの [ヘルプ] ボタンをクリックして、オンラインヘルプを参照してください。

ホワイトボードの制御を制限する場合は、「ホワイトボードの同期」(P 4-14) を参照してください。

関連トピック

- パーチャル会議室とのデスクトップ コラボレーション (P 1-7)
- ホワイトボード機能 (P 1-7)
- コラボレーション用チェックリスト (P 4-1)
- ホワイトボード セッションの終了 (P 4-13)
- ホワイトボードの同期 (P 4-14)

ホワイトボード セッションの終了

ホワイトボード セッションを終了するには、[ホワイトボード] ウィンドウを閉じます。終了時に、ホワイトボードの内容を保存することもできます。ホワイトボードを閉じても、各参加者のコンピュータの画面にはホワイトボードで表示された状態で残っています。そのため、参加者はホワイトボードの内容を各自のローカルドライブに保存してから、ホワイトボードを閉じることができます。ユーザがホワイトボード セッションを終了していても、通話を保持していれば、[ホワイトボード] ボタンをクリックすると、いつでもホワイトボード セッションに復帰することができます。



(注) ホワイトボード セッションを開始した参加者が、ほかの参加者がそのセッションにまだ残っているのに、Cisco IP SoftPhone を終了する場合は、各参加者の PC 上のホワイトボード セッションは、強制的に終了されてしまいます。

ホワイトボードの同期

同期機能により、参加者全員が同時に同じページを表示することができます。デフォルトでは、ホワイトボードセッションを開始すると、必ず同期が有効になります。

ページを非公開にして作業したい場合は、同期機能を無効にして、ページが自動表示されないようにできます。同期は、他の参加者がその時点で表示しているページには影響を与えません。同期を無効にしても、現在のページで作業をすると、その作業は他の参加者に見えます。

手順



ステップ1 ホワイトボードセッションを開始します。

「ホワイトボードセッションの開始」(P 4-12)を参照してください。

ステップ2 ホワイトボードセッションで、**表示 > 同期**をクリックします。

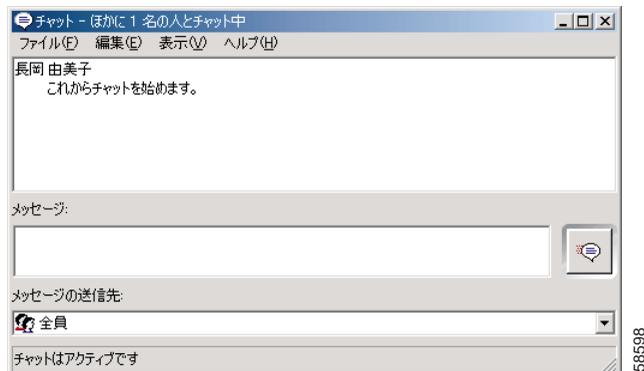
このとき、[同期]の隣にあるチェックマークは外れて、同期機能が無効になったことが知らされます。

チャットメッセージの送信

[ロースタ] ウィンドウには、Microsoft NetMeeting チャット アプリケーションを起動する、[チャット] ボタンがあります。チャット アプリケーションを使用して、ミーティングの参加者全員や指定した参加者に、メッセージを送信することができます。

参加者のだれかがユーザにメッセージを送信すると、そのメッセージが [チャット] ウィンドウに表示されます。図 4-5 を参照してください。

図 4-5 チャット セッション



チャット アプリケーションのフォントのカスタマイズ、情報の表示、メッセージの形式をカスタマイズする方法については、[チャット] ウィンドウのヘルプメニューをクリックしてください。

手順



ステップ 1 通話中または音声会議中に、[コラボレーション] アイコンをクリックします。

ロースタ名簿に、通話中の参加者全員が表示されます。

ステップ 2 [チャット] ウィンドウを開くには、[チャット] ボタンをクリックします。

ステップ 3 [メッセージ] ブロックに送信するチャットメッセージを入力し、次のいずれかの手順を選択します。

- 参加者全員にメッセージを送信するには、[メッセージの送信先] ドロップダウンリストから [全員] を選択します。
- 参加者の 1 人だけにメッセージを送信するには、[メッセージの送信先] ドロップダウンリストから送信先の名前を選択します。

ステップ 4 チャットメッセージを送信するには、[メッセージの送信] ボタンをクリックするか、キーボードから Enter キーを押します。

関連トピック

- チャット (P 1-9)
- コラボレーション用チェックリスト (P 4-1)
- ロースタ名簿の使用 (P 4-3)

ビデオ コラボレーション セッションの準備

NetMeeting のビデオコラボレーション機能を使用するには、バーチャル会議室を無効にし、NetMeeting を有効にする必要があります。その手順は、次のとおりです。

手順



ステップ 1 [設定] アイコンをクリックします。

ステップ 2 [詳細設定] タブをクリックします。

ステップ 3 コラボレーション設定を [NetMeeting] に変更します。

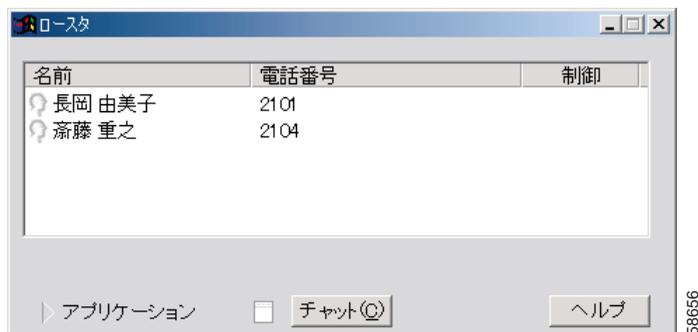
ステップ 4 [OK] をクリックします。

この設定を有効にするには、Cisco IP SoftPhone を再起動する必要があります。

Cisco IP SoftPhone を再起動すると、Cisco IP SoftPhone が NetMeeting のユーザーインターフェイスを使用して発信が可能になります。NetMeeting を起動するには、[ロースタ]を開き、[NetMeeting の起動] ボタンをクリックします。図 4-6 を参照してください。

NetMeeting のビデオ コラボレーション機能の詳しい使用法は、Microsoft NetMeeting のオンラインヘルプを参照してください。

図 4-6 NetMeeting の起動



関連トピック

- ビデオ コラボレーション (P 1-10)
- コラボレーション用チェックリスト (P 4-1)



トラブルシューティング

この付録では、Cisco IP SoftPhone の使用時によく経験することが予想される、共通の問題をトラブルシューティングする方法について説明します。

- FAQ (よくある質問) (P A-2)
- Cisco CallManager の IP アドレスの見つけ方と変更の方法 (P A-16)
- オーディオの設定 (P A-20)
- バーチャル会議に関する問題の診断 (P A-22)

FAQ (よくある質問)

以下の FAQ は、ユーザが Cisco IP SoftPhone の使用時によく経験する可能性のある共通の問題を解決するときに役立ちます。

- Cisco IP SoftPhone を開始しましたが、使用したい回線がまったく見つからないのはどうしてですか。(P A-2)
- 回線が表示されているにもかかわらず、開こうとすると Cisco IP SoftPhone に「 Could not open address 」エラーが表示されてしまいます。(P A-9)
- 音声にジッターや途切れが生じる理由を教えてください。(P A-10)
- 音声が一方しか聞こえない理由を教えてください。(P A-11)
- Cisco IP SoftPhone の起動時に、「 Could Not Initialize Audio Error 」が表示される理由を教えてください。(P A-15)

Cisco IP SoftPhone を開始しましたが、使用したい回線がまったく見つからないのはどうしてですか。

この問題に関しては、次のようないくつかの原因が考えられます。

考えられる原因 回線が選択されていません。

対応策 「使用する回線の選択」(P 3-2) を参照してください。

考えられる原因 Cisco CallManager で回線の割り当てが行われていません。

対応策 システム管理者に、Cisco CallManager のユーザ用回線の割り当てと関連付けを依頼してください。

考えられる原因 Cisco IP SoftPhone で、回線を表示する設定が正しく行われていません。

対応策 Cisco IP SoftPhone の設定を確認します。「Cisco IP SoftPhone 設定の確認」(P A-3) を参照してください。

考えられる原因 Cisco IP SoftPhone と同時にインストールされる Cisco ローカル TSP が、正しく設定されていません。

対応策 Cisco ローカル TSP 設定を確認します。「Cisco TSP 設定の確認」(P A-5) を参照してください。

考えられる原因 ユーザのコンピュータでテレフォニ サービスの再起動が必要です。

対応策 テレフォニ サービスを再起動します。「テレフォニ サービスの再起動」(P A-8) を参照してください。

考えられる原因 ネットワークに正しくアクセスできていません。

対応策 ネットワーク接続を確認します。「ネットワーク接続の確認」(P A-9) を参照してください。

Cisco IP SoftPhone 設定の確認

ローカル TSP (Telephony Service Provider) が Cisco IP SoftPhone で有効になっているか確認する手順は、次のとおりです。

手順

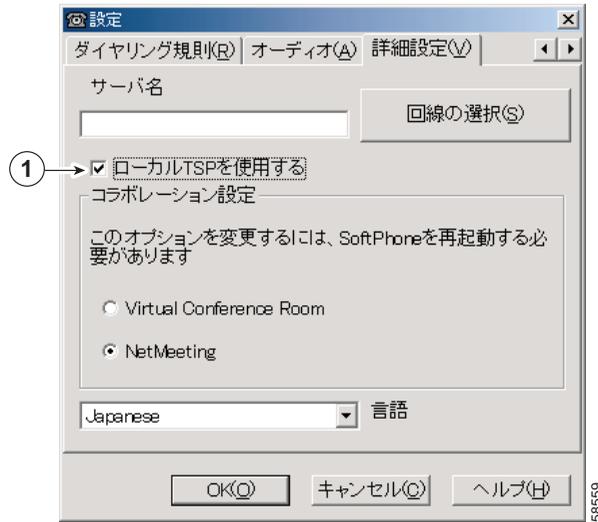


ステップ 1 [設定] アイコンをクリックします。

ステップ 2 [詳細設定 (V)] タブをクリックします。

ステップ 3 [ローカル TSP を使用する] チェックボックスにチェックが付いていることを確認します。図 A-1 を参照してください。

図 A-1 ローカル TSP の有効化



- | | |
|----------|---|
| 1 | このチェックボックスにチェックを付けて、ローカル TSP を使用可能にします。 |
|----------|---|

ステップ 4 テレフォニ サービスを再起動します。

「テレフォニ サービスの再起動」(P A-8) を参照してください。

ステップ 5 Cisco IP SoftPhone を起動します。

前述の手順を実行しても回線が全く見つからない場合は、「Cisco TSP 設定の確認」(P A-5) を参照してください。

Cisco TSP 設定の確認

Cisco CallManager と通信するのに Cisco TSP が正しく設定されているか確認する手順は、次のとおりです。

- Cisco CallManager 3.1 での Cisco TSP 設定の検証 (P A-5)
- Cisco CallManager 3.0.6 での Cisco TSP 設定の検証 (P A-6)



(注) ご使用の Cisco CallManager バージョンが Cisco IP SoftPhone に対応しているか不明の場合は、システム管理者にお問い合わせください。

Cisco CallManager 3.1 での Cisco TSP 設定の検証

手順

- ステップ 1 Windows のコントロールパネルから、[**テレフォニー**] アイコン (Windows 95/98/NT の場合) [**電話とモデムのオプション**] アイコン (Windows 2000 の場合) を選択します。
- ステップ 2 [**テレフォニー ドライバ**] タブ (Windows 95/98/NT の場合) か、[**詳細**] タブ (Windows 2000 の場合) をクリックします。
- ステップ 3 選択ボックスから **Cisco TSP001.tsp** を選択して、[**構成 (C)...**] ボタンをクリックします。

前述の手順で開いたドロップダウンリストボックスに **Cisco IP PBX Service Provider** テレフォニー ドライバが存在しない場合、またはリストに **ciscotsp.tsp** のリストが存在する場合は、Cisco IP SoftPhone をアンインストールしてから、もう一度インストールを行ってください。この手順を行っても回線が全く見つからない場合は、システム管理者に確認してください。

ステップ 4 [Cisco IP PBX Service Provider] ウィンドウで、次の設定を実行(または確認)します。

- a. [User] タブをクリックして、Cisco CallManager 上に割り当て済みのユーザ名とパスワードを再入力します。
- b. [CTI Manager] タブをクリックして、CallManager IP Address ラジオボタンが使用可能になっているか、また Cisco CallManager 用の正しい IP アドレスが表示されているか確認します。
表示された IP アドレスが間違っている場合は、正しい IP アドレスを入力します。
- c. [Advanced] タブをクリックし、[Synchronous Message Timeout] フィールドには、15 と入力します。

ステップ 5 [OK] をクリックします。

ステップ 6 テレフォニ サービスを再起動します。

「テレフォニ サービスの再起動」(P A-8) を参照してください。

ステップ 7 Cisco IP SoftPhone を起動します。

前述の手順を実行しても回線が全く見つからない場合は、「ネットワーク接続の確認」(P A-9) を参照してください。

Cisco CallManager 3.0.6 での Cisco TSP 設定の検証

手順

ステップ 1 Windows のコントロールパネルから、[テレフォニー] (Windows 95/98/NT の場合) [電話とモデムのオプション] (Windows 2000 の場合) を選択します。

ステップ 2 [テレフォニー ドライバ] タブ (Windows 95/98/ME/NT) または [詳細] タブ (Windows 2000) をクリックします。

- ステップ 3** 選択ボックスで [Cisco IP PBX Service Provider] を選択し、[構成 (C)...] をクリックします。

前述の手順で開いたドロップダウンリストボックスに [Cisco IP PBX Service Provider] テレフォニドライバが存在しない場合、またはリストに `ciscosp.tsp` のリストが存在する場合は、Cisco IP SoftPhone をアンインストールしてから、もう一度インストールを行ってください。この手順を行っても回線が全く見つからない場合は、システム管理者に確認してください。

- ステップ 4** [Cisco IP PBX Service Provider] ウィンドウで、次の設定を実行（または確認）します。

- a. Security のセクションでは、Cisco CallManager 上でユーザ用に設定済みのユーザ名とパスワードを再入力します。
- b. [Call Manager Location] セクションで、[Call Manager IP Address] が有効になっていること、および Cisco CallManager の正しい IP アドレスが表示されていることを確認します。
表示された IP アドレスが間違っている場合は、正しい IP アドレスを入力します。
- c. [Message Timeout] セクションには、15000 と入力します。

- ステップ 5** [OK] をクリックします。

- ステップ 6** テレフォニ サービスを再起動します。

「テレフォニ サービスの再起動」(P A-8) を参照してください。

- ステップ 7** Cisco IP SoftPhone を起動します。

前述の手順を実行しても回線が全く見つからない場合は、「ネットワーク接続の確認」(P A-9) を参照してください。

テレフォニ サービスの再起動

Windows 95/98 の場合は、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** 実行中のすべてのアプリケーションを終了し、そのまま約 15 秒待機します。その後テレフォニ サービスを再起動します。それでも問題が解決しない場合は、コンピュータを再起動します。
-

Windows NT/2000 の場合は、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** Windows のコントロールパネルから、[**サービス**] (Windows NT の場合)、または [**管理ツール**] から [**サービス**] (Windows 2000 の場合) を開きます。

- ステップ 2** 表示をスクロールして、[**Telephony**] を選択します。

- ステップ 3** ステータスが「開始」になっている場合は、一度 [**停止 (O)**] をクリックしてから、[**開始 (S)**] をクリックします。

Remote Access Connection Manager のような別のプロセスが起動している場合は、サービスを停止できないことがあります。サービスを停止できない場合は、コンピュータを再起動します。

- ステップ 4** 前述の手順を実行しても回線がまったく見つからない場合は、「ネットワーク接続の確認」(P A-9) を参照してください。
-

ネットワーク接続の確認

クライアント PC から Cisco CallManager にネットワーク接続が可能であることを確認する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 MS-DOS ウィンドウか、コマンド プロンプトを開きます。

ステップ 2 `ping a.b.c.d` を入力します。ここで、「a.b.c.d」はユーザの Cisco CallManager の IP アドレスです。

Cisco CallManager と通信できる状態であれば、上述のように Cisco CallManager の IP アドレスを入力すると、「reply」メッセージが戻ります。Cisco CallManager と通信できない状態であれば、「request timed out」メッセージが戻されます。ネットワークに問題があるかどうかを知る手がかりとなります。

ステップ 3 問題を解決する方法が見つからない場合は、コンピュータを再起動してください。

回線が表示されているにもかかわらず、開こうとすると Cisco IP SoftPhone に「Could not open address」エラーが表示されてしまいます。

考えられる原因 回線がローカルもしくは別のコンピュータ上で他のアプリケーションが開かれている場合に起こる問題です。1本の回線は同時に1回しか開けません。この問題に対処するには、テレフォニ サービスを再起動し、それからもう一度 Cisco IP SoftPhone を起動します。

対応策 テレフォニ サービスを再起動します。「テレフォニ サービスの再起動」(PA-8)を参照してください。

音声にジッターや途切れが生じる理由を教えてください。

考えられる原因 適切でないオーディオドライバが使用されている可能性があります。

対応策 適切なオーディオドライバを選択します。「適切なオーディオドライバの選択」(PA-10)を参照してください。

適切なオーディオドライバの選択

Cisco IP SoftPhone で使用可能なオーディオドライバには、次の 2 種類があります。DirectSound オーディオドライバと、Wave オーディオドライバです。

DirectSound オーディオドライバは、複数のアプリケーションから同時にスピーカを使用できます。Wave オーディオドライバには、この機能がありません。

Windows NT では、Wave オーディオドライバのみをサポートしています。一方、Windows 95/98/2000 では、DirectSound と Wave の両方のオーディオドライバをサポートしています。

手順

ステップ 1 サウンドカードには、最新のドライバがインストールされているか確認します。

コンピュータに付属のユーザ用ドキュメントを参照してください。



ステップ 2 [設定] アイコンをクリックします。

ステップ 3 [オーディオ (A)] タブを選択します。

ステップ 4 以下の手順で、適切なドライバを選択します。

- Windows NT の場合は、[サウンドカードには wave ドライバを使用する] を選択します。
- Windows 95/98/2000 の場合は、[サウンドカードには wave ドライバを使用する] の選択を外します。

音声が一方向しか聞こえない理由を教えてください。

着信するオーディオを受信できないと半二重オーディオになります。

考えられる原因 ユーザのサウンドカードが全二重に対応していません。

対応策 ユーザのサウンドカードが全二重対応か確認します。詳細は、「全二重サウンドカードと半二重サウンドカード」(P A-11) を参照してください。

考えられる原因 PC のオーディオの設定を調整する必要があります。

対応策 PC のオーディオの設定をします。「オーディオの設定」(P A-20) を参照してください。

考えられる原因 オーディオ ストリームが正しくリダイレクトされていません。

説明 PC 上に複数の NIC (Network Interface Card) が存在しています。または、システムが VPN (Virtual Private Network) が企業ネットワークに接続中です。

対応策 [ネットワークオーディオ]を設定してください。「ネットワークオーディオの設定」(P A-12) を参照してください。

全二重サウンドカードと半二重サウンドカード

Cisco IP SoftPhone が正しく動作するには、全二重サウンドカードが必要です。全二重サウンドカードなら、音声をキャプチャすると同時に再生ができます。そのため、両方向の会話ができるのです。大半のコンピュータに搭載されているサウンドカードは全二重ですが、まれに 半二重のものもあります。Cisco IP SoftPhone で音声が一方向しか聞こえない場合は、コンピュータに搭載されているサウンドカードが半二重の可能性もあります。

サウンドカードの種類を判別するには、コンピュータかサウンドカードに付属のドキュメントを確認してください。次の簡単な確認方法を実行して、サウンドカードが全二重か半二重かを確認することもできます。

手順

ステップ 1 Cisco IP SoftPhone を終了します。

ステップ 2 Microsoft NetMeeting を起動します。

ステップ 3 Microsoft NetMeeting を起動している同僚などに協力してもらい、NetMeeting で協力者に呼びかけます。

発信先の協力者が同じ建物か構内にいて、間にファイアウォールを挟んでいないことを確認します。

ステップ 4 回線が確立したら、発信先の協力者と同時に通話を開始します。

自分が話している間に協力者の声が聞こえ、協力者の相手が話している間に自分の声が伝われば、全二重のサウンドカードを使用していることが分かります。

このテストがうまくいかない場合は、おそらく半二重のサウンドカードを使用しています。Cisco IP SoftPhone が正しく動作するには全二重のサウンドカードが必要です。全二重対応のサウンドカードをインストールしてください。

ネットワークオーディオの設定

次のいずれかの状況に該当する場合は、ネットワークオーディオの設定が必要になります。

- Cisco IP SoftPhone を使用して、VPN を経由で企業ネットワークに接続している。
- 複数の NIC を使用している。
- ネットワークとの接続を切断した後、再接続をした（例：ノートブック PC でドッキングベイをアンドック後にまたドッキングした）とき。

このような状況では、Cisco IP SoftPhone は正しい IP アドレスを使用できなくなります。ネットワークオーディオ設定をして、正しい IP アドレスを取得する必要があります。

始める前に

複数の NIC を使用しているか、VPN で企業ネットワークに接続しているか確認しておいてください。

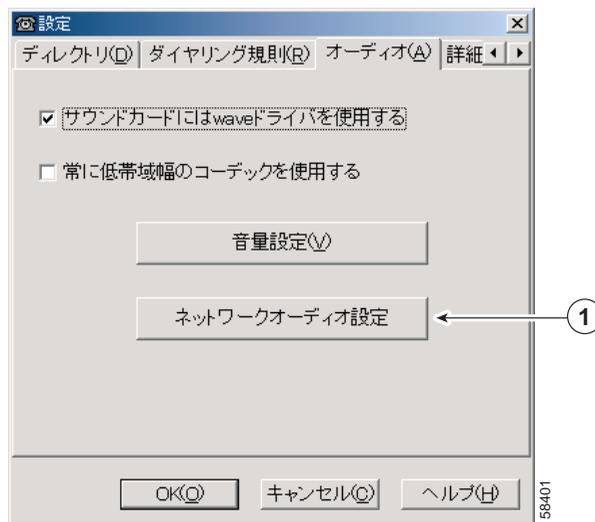
手順



ステップ 1 [設定] アイコンをクリックします。

ステップ 2 [オーディオ (A)] タブをクリックします。図 A-2 を参照してください。

図 A-2 [オーディオ] タブ

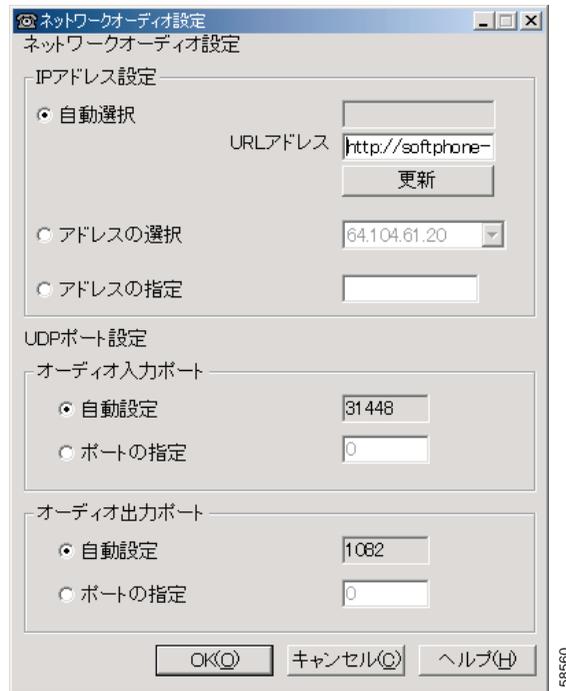


1 ここをクリックして、ネットワークオーディオの設定をします。

ステップ 3 [ネットワークオーディオ設定] ボタンをクリックして、[ネットワークオーディオ設定] ウィンドウを開きます。

図 A-3 を参照してください。

図 A-3 ネットワークオーディオ設定



ステップ 4 IP アドレスを設定する手順は、次のとおりです。

複数の NIC を使用している場合：

デフォルトの設定を選択：[**自動選択**] (web インストレーション) または [**アドレスの選択**] (CD インストレーション) を選択し、[**更新**] ボタンをクリックします。

VPN で企業ネットワークに接続している場合：

- a. URL アドレス フィールドに IP アドレスが指定されている場合は、[**自動選択**] を選択します。
- b. URL フィールドがブランクの場合は、[**アドレスの指定**] を選択し、VPN ソフトウェアで使用している IP アドレスを入力します。

- c. VPN IP アドレスを決定できない場合は、[**アドレスの選択**] を選択してください。
ドロップダウンリストからランダムにアドレスを選択してください。全二重のオーディオが確立するまで、ドロップダウンメニューから異なるアドレスをランダムに選択してください。
- d. これでも、半二重オーディオの問題が解決しない場合は、システム管理者にお問い合わせください。

ステップ 5 [UDP ポート設定] セクションでは、デフォルトの [**自動設定**] を [オーディオ入力ポート] および [オーディオ出力ポート] の両方で選択してください。

ステップ 6 [**OK (O)**] ボタンをクリックします。



(注) オリジナルの設定画面に戻すには、[**更新**] ボタンをクリックして、画面を再表示します。

Cisco IP SoftPhone の起動時に、「Could Not Initialize Audio Error」が表示される理由を教えてください。

考えられる原因 サウンドカードがユーザの PC に装着されていません。

対応策 ユーザの PC に全二重のサウンドカードをインストールします。

考えられる原因 適切なオーディオ ドライバがインストールされていません。

対応策 サウンドカードのメーカーがサポートする Web サイトから、最新のオーディオ ドライバをダウンロードしてください。オーディオドライバ、マイクロフォン、スピーカが動作していることを確認するには、Microsoft サウンドレコーダーのようなアプリケーションを使用して、録音と再生を試みます。

Cisco CallManager の IP アドレスの見つけ方と変更の方法

Cisco IP Phone で使用している Cisco CallManager の IP アドレスを決定する手順は、次のとおりです。

ステップ 1 Cisco IP Phone の **[設定]** ボタンをクリックし、LCD 画面のメニューから **[ネットワーク設定]** を選択します。

ステップ 2 画面をスクロールして、Cisco CallManager 1 のエントリを表示します。

Cisco CallManager の IP アドレスが「Active」として表示されます。これは、ユーザが Cisco IP SoftPhone をインストールするときに使用しなければならない IP アドレスです。

Cisco IP SoftPhone で使用している Cisco CallManager を確定する

始める前に

Cisco CallManager 3.1 または 3.0.6 を使用しているかは、システム管理者にお問い合わせください。

Windows 95/98/ME/NT の場合 :

ステップ 1 Windows のコントロールパネルから、**[テレフォニー]** を選択します。

ステップ 2 **[テレフォニー ドライバ]** タブをクリックします。

ステップ 3 次のいずれかの方法で、Cisco TSP Service プロバイダーを選択します。

- Cisco CallManager 3.1 を使用している場合は、セクションボックスの **[Cisco TSP001.tsp]** を選択します。
- Cisco CallManager 3.0.6 を使用している場合は、セクションボックスの **[Cisco IP PBX Service Provider]** を選択します。

ステップ 4 [構成 (C)...] をクリックしてください。

Cisco IP SoftPhone でユーザが使用している Cisco CallManager の IP アドレスが、[Cisco IP PBX Service Provider] ウィンドウの [CallManager Location] セクションに表示されます。

上で表示された IP アドレスがユーザの Cisco IP Phone が使用している IP アドレスと異なる場合は、Cisco IP Phone の正しい IP アドレスに編集する必要があります。

Windows 2000 の場合：

ステップ 1 Windows のコントロール・パネルから、[電話とモデムのオプション] を選択します。

ステップ 2 [詳細] タブをクリックします。

ステップ 3 次のいずれかの方法で、Cisco TSP Service プロバイダーを選択します。

- Cisco CallManager 3.1 を使用している場合は、セレクションボックスの [Cisco TSP001.tsp] を選択します。
- Cisco CallManager 3.0.6 を使用している場合は、セレクションボックスの [Cisco IP PBX Service Provider] を選択します。

ステップ 4 [構成 (C)...] をクリックしてください。

Cisco IP SoftPhone でユーザが使用している Cisco CallManager の IP アドレスが、「Cisco IP PBX Service Provider」ウィンドウの [CTI Manager] タブセクションに表示されます。

前述で表示された IP アドレスがユーザの Cisco IP Phone が使用している IP アドレスと異なる場合は、Cisco IP Phone の正しい IP アドレスに編集する必要があります。

Cisco IP SoftPhone 用に設定した Cisco CallManager の IP アドレスを変更する手順の実行。

Windows 95/98/ME/NT の場合：

-
- ステップ 1 「Cisco IP PBX Service Provider」ウィンドウの [Cisco CallManager Location] セクションで、接続先の Cisco CallManager の IP アドレスを入力します。
- ステップ 2 「Cisco IP PBX Service Provider」ウィンドウの [Security] セクションに、Cisco CallManager でユーザが使用する、割り当て済みのユーザ名とパスワードを入力します。
- ステップ 3 [OK] をクリックします。



(注) Cisco IP Phone で Cisco IP SoftPhone を使用するには、Cisco IP SoftPhone 用に設定するユーザ名とパスワードが、そのユーザ用に Cisco CallManager で割り当てられている設定値と正確に一致する必要があります。

Windows 2000 の場合：

-
- ステップ 1 「Cisco IP PBX Provider」ウィンドウの [CTI Manager] タブをクリックして IP アドレスのラジオボタンを選択します。
- ステップ 2 IP アドレス フィールドには、接続する Cisco CallManager の IP アドレスを入力します。
- ステップ 3 [Cisco IP PBX Service Provider] ウィンドウの [User] タブをクリックし、Cisco CallManager 用に割り当て済みのユーザ名とパスワードを入力します。
- ステップ 4 [OK] をクリックします。



-
- (注) Cisco IP Phone で Cisco IP SoftPhone を使用するには、Cisco IP SoftPhone 用に設定するユーザ名とパスワードが、そのユーザ用に Cisco CallManager で割り当てられている設定値と正確に一致する必要があります。
-

オーディオの設定

クライアント PC のオーディオの設定が正しく行われていないことが原因で、通話が両方向から聞こえないことがしばしば起こります。オーディオの設定を確認し、調節する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 スタート > プログラム > アクセサリ > マルチメディア > サウンドレコーダーを順に選択します。

ステップ 2 マイクフォンを使用して、5 秒から 10 秒ほど、音声を録音します。

ステップ 3 前述のステップで録音した音声を再生します。

音声が聞き取れれば、ユーザの音声設定は正しく行われています。

音声が聞き取れない場合は、サウンドレコーダーを終了して、ステップ 4 に進んでください。

ステップ 4 スタート > プログラム > アクセサリ > マルチメディア > ボリュームコントロールを順に選択します。

ステップ 5 オプション > プロパティを選択します。

ステップ 6 「音量の調整」で、[再生]を選択します。

ステップ 7 [表示するコントロール]の一覧で、すべての項目にチェックが入っていることを確認します。

すべての項目を確認するには、リストの一番下までスクロールする必要があります。

ステップ 8 [OK] をクリックします。

ステップ 9 「音量の調整」で、[録音]を選択し、ステップ 7 とステップ 8 を実行します。

ステップ 10 **オプション** > **詳細設定** を選択します。



(注) サウンドカードが詳細設定をサポートしていない場合は、この機能は利用できません。

ステップ 11 [マスター音量制御] ウィンドウで、すべての音量を 80 パーセント前後に設定します。すべてのバランスを中央に設定します。

ステップ 12 音量調節と Wave の [ミュート] にチェックが入っていないことを確認します。

ステップ 13 不自然な設定に見えますが、マイクロフォンの [ミュート] ボックスには必ずチェックを入れます。この設定により、マイクロフォンの入力が多メディアスピーカやユーザのコンピュータの内蔵スピーカに直接流れないようにします。

ユーザが使用するボイスコンピューティング アプリケーションに応じて、その他の音量はミュートにしても問題ありません。

ステップ 14 **オプション** > **プロパティ** を順に選択し、録音と再生にそれぞれ正しいオーディオデバイス (サウンドカード) が指定されていることを確認します。

ステップ 15 ステップ 1 からステップ 3 を繰り返します。

前述の手順を実行してもサウンドレコーダーが正しく動作しない場合は、Cisco IP SoftPhone に関する問題ではありません。オーディオの設定については、システム管理者に相談してください。

バーチャル会議に関する問題の診断

兆候 ディレクトリで「割り当てる PC」と「ユーザ」を正しく定義したにもかかわらず、そのユーザとバーチャル会議を行うことができません。

考えられる原因 そのユーザが LAN や WAN 上で移動した後（ノート型 PC を使用しているなどの理由で）、LAN のディレクトリサービスによる現在の IP アドレスの反映が更新されていません。

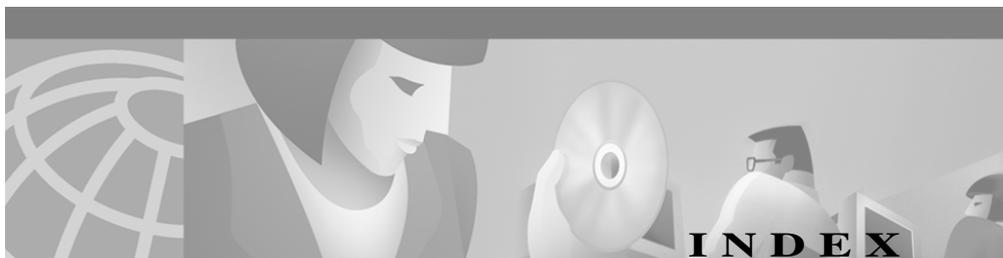
対応策 Cisco IP SoftPhone が、割り当てる PC の新しい IP アドレスを検出するまで待機し、それから再びそのユーザとバーチャル会議を試します。

兆候 コラボレーション チェックリストの条件に完全に一致しているのに、コラボレーションを行うことができません。

考えられる原因 PC のオーディオ設定をしていないか、Microsoft NetMeeting の設定が行われていません。Cisco IP SoftPhone をインストールした後で、新しいバージョンの NetMeeting をインストールした場合は、バーチャル会議を行う前に NetMeeting でユーザ設定とオーディオの設定を行う必要があります。この作業は、一度だけ行う必要があります。

手順

-
- ステップ 1 **スタート > プログラムメニュー**から、NetMeeting を起動します。
 - ステップ 2 指示にしたがって、オーディオの設定とユーザ設定を行います。
 - ステップ 3 NetMeeting を終了します。
 - ステップ 4 Cisco IP SoftPhone を再起動します。
-



Symbols

.wav ファイル

- 応答メッセージ 3-22
- 音量の調節 3-14
- 形式 3-32
- 再生 3-32, 3-33
- 自動応答 3-32
- 停止 3-33

C

Cisco CallManager

- IP アドレスの確定 A-16
- 概要 1-12

Cisco E911 service support 1-11

Cisco IP Phone

- 制御 3-4

Cisco IP SoftPhone

- Cisco IP Phone の制御への使用 1-4
- IP 電話としての使用 1-3
- 開始 2-14
- 終了 2-16
- スタンドアロン型電話機として使用 1-3

Cisco IP SoftPhone の終了 2-16

I

IP アドレス

- Cisco CallManager の検索 A-16

M

MAC アドレス

- Cisco IP Phone 用の選択 3-4

Microsoft NetMeeting 1-10, 4-17

- システム要件 1-14
- チャットアプリケーション 4-15

T

Top Provider 4-9

V

v-card file

- 発信 3-17

あ

アイコンバー 3-6

[アドレス帳] ウィンドウ 3-18

アプリケーション共有の各種制御 4-6

- アプリケーションの共有 1-9, 4-8
 - 概要 1-7
- [アプリケーション] ボタン 4-5
- い
- 一時ハードディスクの空き容量
 - システム要件 1-13
- インストール
 - 要件 2-2, 2-4, 2-7
- インターネット用ブラウザ
 - システム要件 1-13
- え
- 英数字の変換 1-5
- エラー
 - アドレスを開けません A-9
 - 音声を初期化できませんでした A-15
- お
- [オフフック] ボタン 3-9
- オペレーティング システム
 - システム要件 1-13
- 音声
 - .wav ファイル 3-32
 - 一方向 A-11
 - 音声を初期化できませんでしたエラー A-15
 - 設定の調節 A-20
 - 全二重 1-6
 - 適切なドライバの選択 A-10
 - 問題 A-10
- 音声会議
 - 開始 3-30
 - 参加者の追加 3-31
- [音声メッセージ] アイコン 3-8
- オンライン会議 1-7
- 音量
 - 調節 3-12, 3-13
- [音量の設定] アイコン 3-8
- か
- 会議通話
 - 開始 3-30
 - 概要 1-6
- [会議] ボタン 3-10
- 回線
 - Cisco IP Phone の制御 3-4
 - 回線がまったく見つからないのはどうしてですか。 A-2
 - 選択 3-2
- [回線] タブ
 - 使用 3-11
- [回線] ボタン 3-6
- き
- キーパッド
 - からのダイヤル 3-18
 - 非表示 3-11
- キーパッドアイコン 3-8

- く
 - [クリア] ボタン 3-9
- け
 - 検索
 - ディレクトリ 3-19
- こ
 - コール トラッキング
 - について 1-6
 - コールブロック 3-6
 - コラボレーション 1-7
 - チェックリスト 4-1
 - アプリケーションの共有 1-9
 - 概要 4-1
 - 参加者の追加 3-31
 - 資料の共有 1-9
 - 設定の変更 3-40
 - ビデオ 4-17
 - ビデオ セッションの開始 4-17
 - ホワイトボード機能 1-7
 - 問題の診断 A-22
 - ロースタ名簿の使用 4-3
 - コラボレーション アイコン 3-8
- さ
 - サウンドカード
 - システム要件 1-13
 - 全二重と半二重 A-11
- [参加] ボタン 3-10
- 参照
 - 通話ログ 3-39
- し
 - システム要件 1-13
 - [終了] ボタン 3-6
 - 状況依存ボタンバー 3-6, 3-9
 - 詳細タブ 3-40
 - 資料の共有 1-9
 - 開始 4-7
 - 概要 1-7
 - 制御の移行 4-9
 - 制御の要求 4-11
 - セッションの開始 4-7
 - セッションの終了 4-11
- す
 - スタンドアロン モード 1-3
 - スピーカ
 - 音量の調節 3-12, 3-13, 3-14
- せ
 - 全二重サウンドカード A-11
- た
 - ダイヤリング
 - オンラインキーパッドからの 3-18
 - オンラインディレクトリからの 3-18

最近ダイヤルした番号 3-19
 について 1-5
 文字列 1-5
[ダイヤリング ディレクトリ] アイコン 3-8
ダイヤリング ボックス 3-6
ダイヤリングパッド 3-7
 ボタン 3-7
[ダイヤル] ボタン 3-9

ち

チャット
 メッセージの送信 4-15
[チャット] ボタン 4-15

つ

通話
 応答 3-20
 音声会議 3-30
 終了 3-20
 発信 3-16
[通話終了] ボタン 3-9
通話の終了 3-20
通話ログ
 参照 3-39
 データ 3-39
 ファイル 1-6
[通話ログ] アイコン 3-8

て

ディレクトリ
 からのダイヤル 3-18
 検索 3-19, 3-38
 項目の削除 3-37
 項目の追加 3-34
 項目の編集 3-38
 使用 3-34
 フィルタリング 3-19
ディレクトリ エントリの削除 3-37
ディレクトリ エントリの編集 3-38
デスクトップ コラボレーション
 概要 1-7
テレフォニ サービス
 再起動 A-8
[転送] ボタン 3-9
電話帳
 について 1-5

と

トラブルシューティング A-1
[取り消し] ボタン 3-10

ね

ネットワーク
 各種コンポーネント 1-12
 要件 1-13
ネットワークオーディオの設定
 設定 A-12

ネットワーク接続

確認 A-9

要件 1-14

[ヘルプ] アイコン 3-8

は

バーチャル会議室

概要 1-7

無効 1-10

ハードディスクの空き容量

システム要件 1-13

ハンドセット 3-6

システム要件 1-14

非表示 3-11

ボタン 3-7

半二重サウンドカード A-11

ひ

ビデオ コラボレーション 1-10, 4-17

概要 1-10

セッションの開始 4-17

ビデオ会議 1-10

ふ

[振分] ボタン 3-10

プロセッサ (CPU)

システム要件 1-13

へ

ヘッドセット

システム要件 1-14

ほ

ボイスメール

確認 3-28

使用 3-27

設定 3-27

統合 1-11

[ボイスメール] ボタン 3-10

ボタンバー 3-6

[保留] ボタン 3-9

ホワイトボード機能 1-7

概要 1-7

各種のツール 1-7

参加者の追加 3-31

セッションの開始 4-12

セッションの終了 4-13

同期 4-14

ま

マイクروفオン

音量の調節 3-12, 3-14, 3-15

マイクروفオンのミュート 3-15

む

[無視] ボタン 3-10

め

メインダイヤリング ウィンドウ 2-14

 使用 3-5

 変更 3-11

メモリ

 システム要件 1-13

よ

よくある質問とその答え A-2

呼出音

 音量の調節 3-14

り

リダイヤル 3-19

[リダイヤル] ボタン 3-9

ろ

ローカル TSP

 有効 A-3

ロースタ名簿

 使用 4-3

わ

割り当てる PC

 指定 3-34